

調達要求番号：

陸 上 自 衛 隊 仕 様 書			
物品番号		仕 様 書 番 号	
1 6 式機動戦闘車		G V - Y 1 2 0 0 0 3	
		防衛大臣承認	平成27年12月25日
		作 成	平成27年11月30日
		変 更	年 月 日
		作成部隊等名	補給統制本部 火器車両部

1 総則

1.1 適用範囲

この仕様書は、陸上自衛隊が使用する16式機動戦闘車（以下“機動戦闘車”という。）について規定する。

1.2 用語及び定義

この仕様書で用いる用語及び定義は、GLT-CG-Z000001によるほか、**附属書A**による。

1.3 種類

種類は、**表1**による。

表1－種類

番号	品名	物品番号	注記
1	機動戦闘車	—	—
2	機動戦闘車（ウインチ装置付）	—	—

1.4 引用文書

この仕様書に引用する次の文書は、この仕様書に規定する範囲内において、この仕様書の一部を成すものであり、入札書又は見積書の提出時における最新版とする。

a) 規格

J I S B 4 6 0 4	モンキレンチ
J I S B 4 6 0 9	ねじ回し—すりわり付きねじ用
J I S B 4 6 1 4	プライヤ
J I S B 4 6 3 0	スパナ
J I S B 4 6 3 3	十字ねじ回し
J I S B 4 6 3 6 - 1	ソケットレンチ—12.7角ドライブ
J I S B 4 6 3 6 - 2	ソケットレンチ—5.3～25角ドライブ
J I S B 4 6 4 8	六角棒スパナ
J I S D 1 0 1 4	自動車加速試験方法
J I S K 5 5 7 2	フタル酸樹脂エナメル
J I S K 5 6 5 1	アミノアルキド樹脂塗料
J I S D 8 1 0 1	自動車用油圧式携行ジャッキ
N D S C 0 0 0 2	地上用電子機器通則
N D S C 0 0 1 1	電磁干渉試験方法

NDS C 0212	赤外線撮像装置試験方法
NDS D 0101	装軌車の寸法及び質量・荷重の測定方法
NDS D 1011	装軌車の最高速度試験方法
NDS D 1101	装軌車の慣らし運転方法
NDS D 1402	装輪装甲車の渡渉試験方法
NDS D 1403	装輪装甲車の超ごう・超堤試験方法
NDS D 1801	装軌車用ディーゼル機関の性能試験方法通則
NDS G 3105	防弾鋼板
NDS G 3107	防弾鋼用オーステナイト系被覆アーク溶接棒
NDS G 3110	防弾鋼用オーステナイト系ミグ溶接ワイヤ
NDS Z 8011	角形銘板
NDS Z 8201	標準色

b) **仕様書**

DSP K 2209	軽油
DSP K 2239	精密機器用グリース
DSP K 2241	はん（汎）用グリース
DSP K 5201	外部用フタル酸樹脂エナメル（つや有）
DSP K 5218	鉛・クロムフリー外部用フタル酸樹脂エナメル（半つや）
DSP L 4768	帆布
DSP Z 9008	品質管理共通仕様書
CP-Y-0013	74式車載7.62mm機関銃（B）
CP-Y-0079	96式40mm自動てき弾銃
GLT-CG-Z000001	陸上自衛隊装備品等一般共通仕様書
GE-Z421018	粉末消火器
GQ-K000040	外部用フタル酸樹脂エナメル（迷彩用）
GQ-K000044	ディーゼルエンジン油
GQ-K000045	マルチグレードギヤ油
GQ-K000049	自動変速機油
GQ-Z000028	装甲車帽
GS-C215816	広帯域多目的無線機（車両用）
GS-C295812	車載装置 J M R A - Z 1 1 4 - ()
GS-C295936	車載装置（機動戦闘車実用試験車両用）
GS-C296174	車載装置 J M R A - Z 1 1 6 - ()
GS-C685038	基幹連隊指揮統制システム
GS-C685404	戦闘車端末装置
GW-Y102002	76mm発煙弾発射機
GW-Y120019	105mm施線砲座付き
GW-Y201102	12.7mm重機関銃
GW-Y202502	5.56mm機関銃MINIMI
GW-Y808504	戦闘車両用レーザ送受信装置

HV-B730002	野外通信システム対応ソフトウェア（10式戦車用）（その2）
GRD-Z000606	車両状況把握装置（機動戦闘車実用試験用器材）
GRD-Z000609	予備部品（機動戦闘車用）
GRD-Z000618	実用試験用予備部品（機動戦闘車用）
T-A-19	防衛省技術研究本部仕様書 機動戦闘車予備品（2）
T-A-6	防衛省技術研究本部仕様書 機動戦闘車予備品（3）
T-A-7	防衛省技術研究本部仕様書 機動戦闘車予備品（4）

c) **法令等**

武器等製造法（昭和28年法律第145号）

自衛隊の使用する自動車に関する訓令（昭和45年防衛庁訓令第1号）

秘密保全に関する訓令（平成19年防衛省訓令第36号）

装備品等及び役務の調達における情報セキュリティの確保について（通達）〔防経装第9246号（21.7.31）〕

装備品等の型式管理について（通達）〔陸幕武化第123号（21.3.23）〕

技術変更提案の処理について（通達）〔陸幕装計第72号（10.3.26）〕

d) **別冊**

別冊第1 秘密事項の指定等 ~~（秘）~~

別冊第2 秘密事項の指定等 ~~（注意）~~

別冊第3 秘密事項の指定等 ~~（部内限り）~~

2 **製品に関する要求**

2.1 **一般的要求事項**

機動戦闘車の製造に当たっては、“武器等製造法”及び“自衛隊の使用する自動車に関する訓令”並びにその他関連諸法令などに適合しなければならない。

2.2 **構成**

構成は、表2による。

表2-構成

番号	品名	数量	注記
1	機動戦闘車	1式	2.4による。
2	携行工具	1式	表10による。
3	特殊附属品	a)	表12による。
4	拡張性対応装置等	a)	2.10による。
注 ^{a)} 数量については、調達要領指定書によって指定する。			

2.3 **材料・部品・加工法**

材料、部品及び加工法は、NDS C 0002の箇条3を参照し、努めてこれによるほか、次による。

なお、細部については、承認図面による。

- a) **材料・部品** 材料及び部品は、日本工業規格、防衛省規格、防衛省仕様書などの規格品の使用に努め、これらの規格以外の物を使用する場合は、十分な試験を行い、性能を確認した上で使用するものとし、使用上十分な強度を有するものとするほか、次による。
- 1) 特殊鋼板の溶接は、NDS G 3107及びNDS G 3110による。
 - 2) 特殊鋼板、鋼板厚などは、別冊第1による。
 - 3) 電子機器については、NDS C 0002の付表4分類4及び5を務めて適用する。
 - 4) 部品の互換性については、GLT-CG-Z000001の2.1による。
- b) **加工法** 機動戦闘車は、過酷な使用条件に十分耐え得るよう各部の構造及び強度を決定するとともに、必要な試験などを行い信頼性が実証された方法によって加工するものとする。また、車室内部の構造と仕上げについては、乗員の安全に特に留意するものとする。

2.4 構造

構造は、表3による。なお、細部については、承認図面による。

表3-構造

名称	構造
機動戦闘車	a) 砲塔部を車体部の上部に乗せた装輪装甲車である。 b) 砲塔部と車体部は、旋回ベアリング部及びスリップリングにて結合される。旋回ベアリング部には結合を考慮した機械的インターフェースを有し、スリップリングには結合を考慮した機械的及び電氣的インターフェースを有する。 c) GW-Y808504を取付けられる機械的インターフェースを有する。 d) 映像記録装置を取付けられる機械的インターフェースを有する。 e) ウインチ装置を有する。(表1の番号2のみ。)
砲塔部	火器部、砲塔シェル、砲塔装置部及び砲塔防護部からなる。また、車長、砲手及び装填手の3名が搭乗する構造を有する。
火器部	105mm施線砲及び副火器からなる。
105mm施線砲	GW-Y120019による。
副火器	車載機関銃部及び車外機関銃部からなる。
車載機関銃部	機関銃弾箱、冷却ブロワ、車載機関銃用托架からなる
機関銃弾箱	弾列を格納できる構造とする。
冷却ブロワ	ブロワ本体及びダクトからなり、105mm施線砲に装着される構造とする。
車載機関銃托架	CP-Y-0013が取付け可能な構造とする。
車外機関銃部	車外機関銃用銃架からなる。
車外機関銃用銃架	GW-Y201102を搭載できる揺架と旋回支持部からなり、砲塔上に装着する構造とする。
砲塔シェル	a) 特殊鋼板などの溶接構造とし、各構成面（正面、側面、後面、上面及び底面）からなる。

表 3-構造 (続き)

名称		構造	
機動戦闘車 (続き)	砲塔部 (続き)	砲塔シェル (続き)	<p>b) 各構成面のうち正面の中央部には開口部及び砲耳軸受部を設け、105mm施線砲が組み込める構造とする。</p> <p>c) 各構成面のうち、上面にはキューポラ、開口部、車外機関銃用銃架用取付座、車長用視察照準装置取付座及び砲手用視察照準装置取付座を設ける。</p> <p>d) 各構成面のうち、下面にバスケット用開口部を設けるとともに、回転ベアリング取付座を設ける。</p> <p>e) 各構成面のうち、上面、側面又は後面に整備に必要な位置に点検口を設けた構造とする。</p> <p>f) 付加装甲部及び車長用風防装置を取付けられる機械的インターフェースを有する。</p>
		砲塔装置部	砲・砲塔駆動装置、砲塔電気装置、スリップリング、射撃統制装置、表示・操作装置、弾道諸元センサ、砲塔通信装置及び砲塔装置からなる。
		砲・砲塔駆動装置	砲塔旋回装置、砲高低装置、砲固定装置及び砲塔固定装置からなる。
		砲塔旋回装置	旋回ギヤボックス、旋回クラッチ、旋回用モータ、砲塔旋回角検出器、手動系リンク及び旋回ハンドルなどからなり、ノーバック機構及びバックラッシュ除去機構を有する。
		砲高低装置	高低ギヤボックス、高低クラッチ、高低用モータ、砲ふ仰角検出器、手動系リンク及び高低ハンドルなどからなり、ノーバック機構及びバックラッシュ除去機構を有する。
		砲固定装置	105mm施線砲と砲塔シェル上面板の下面にロック機構を設けた構造とする。
		砲塔固定装置	片手操作式ロック機構を設け、回転ベアリング部にボルト止めする構造とする。
		砲塔電気装置	電磁開閉器、砲電力増幅器、ハーネスなどからなる。
		スリップリング	バスケット底面中央に取付けられる構造とする。車体部との機械的及び電氣的インターフェースを有する。
		射撃統制装置	射撃統制制御器、視察照準装置、慣性装置及び砲ふ仰角ジャイロからなる。
		射撃統制制御器	統合制御部、照準制御部及び映像処理部からなる。
		統合制御部	<p>a) 射撃統制処理部、通信部からなる。</p> <p>b) 射撃統制処理部は、CPUカードと射撃統制処理ソフトウェアなどからなる。</p> <p>c) 通信部は、サーボ制御系通信部、映像処理系通信部及びセンサ・操作系通信部などからなる。</p> <p>d) GW-Y808504及び映像記録装置と接続するための電氣的インターフェースなどを有する。</p>
		照準制御部	<p>a) 駆動装置、砲塔デジタル伝送装置、演算管理部、通信部、シーケンス部及び信号入出力部からなる。</p> <p>b) 駆動装置は、砲手用視察照準装置用と車長用視察照準装置用からなり、それぞれの視察照準装置近傍に設置する構造とする。</p>

表 3-構造 (続き)

		名称	構造		
機動戦闘車 (続き)	砲塔部 (続き)	砲塔装置部 (続き)	射撃統制装置 (続き)	射撃統制制御部 (続き)	c) 砲塔デジタル伝送装置は、インターフェース基板などからなり、筐体に納めた構造とする。 d) 演算管理部は、CPUカードと管理ソフトウェア、サーボ演算ソフトウェアなどからなる。
				映像処理部	a) 映像処理部は、車長用映像処理部及び砲手用映像処理部及び制御通信部からなる。 b) 各映像処理部は、映像入力部、追尾部及び表示処理部などからなる。 c) 制御通信部はCPUカードと通信カード及び制御通信ソフトウェアからなる。 d) 砲手訓練用・映像記録用映像を出力するための電氣的インターフェースを有する。
				視察照準装置	車長用視察照準装置、砲手用視察照準装置、直接照準眼鏡及び視察装置からなる。
				車長用視察照準装置	車長用視察照準装置本体、赤外線カメラからなる。
				車長用視察照準装置本体	鏡頭旋回部、赤外線カメラ光学系などからなる。
				赤外線カメラ	車長用視察照準装置本体に取付けられる筐体に、撮像部、制御部などを納めた構造とする。
				砲手用視察照準装置	砲手用視察照準装置本体、可視カメラ及び赤外線カメラからなる。
				砲手用視察照準装置本体	鏡頭部、可視カメラ光学系、赤外線カメラ光学系などからなる。レーザ測遠機取付けの光学的、機械的インターフェースなどを有する構造とする。
				可視カメラ	砲手用視察照準装置本体内部に取付けられる筐体に、撮像部及び制御部を納めた構造とする。
				赤外線カメラ	砲手用視察照準装置本体に取付けられる筐体に、撮像部、制御部などを納めた構造とする。
				直接照準眼鏡	光学系には固定レチクル、照準レチクルなどを有し、105mm施線砲に取付けられる構造とする。
				視察装置	プリズムなどからなる潜望鏡構造とし、砲塔シェルにボルト止めする構造とする。
				慣性装置	慣性部、通信部などからなる。
				砲ふ仰ジャイロ	センサ部、通信部、筐体などからなる。
				表示・操作装置	操作ハンドル、操作パネル及び表示部からなる。
				操作ハンドル	車長用ハンドル及び砲手用ハンドルからなる。
				車長用ハンドル	片手操作式とし、射撃統制に必要なスイッチを組み込むものとする。
				砲手用ハンドル	両手操作式とし、射撃統制に必要なスイッチを組み込むものとする。

表3-構造 (続き)

		名称	構造																																																
機動戦闘車 (続き)	砲塔部 (続き)	砲塔装置部 (続き)	表示・操作装置 (続き)	操作パネル	車長用パネル, 砲手用パネル, 砲手用サイドパネル, 装填手用パネル, 非常停止パネル, パネル制御器及び非常撃発用バッテリーからなる。	車長用パネル	射撃統制に必要なスイッチ及び表示灯を筐体の表面に配置した構造とする。	砲手用パネル	射撃統制に必要なスイッチ及び表示灯を筐体の表面に配置した構造とする。	砲手用サイドパネル	射撃統制に必要なスイッチ及び表示灯を筐体の表面に配置した構造とする。	装填手用パネル	装填に必要なスイッチ及び表示灯を筐体の表面に配置した構造とする。	非常停止パネル	非常停止スイッチを筐体の表面に配置した構造とする。	パネル制御器	制御基板, リレー基板及びレーザ検知の信号処理部を筐体に納めた構造とする。	非常撃発用バッテリー	小型電池を筐体に納めた構造とする。	表示部	車長用表示器及び砲手用表示器からなる。	車長用表示器	表示部, 制御基板などからなり, 筐体に納めた構造とする。	砲手用表示器	表示部, 制御基板などからなり, 筐体に納めた構造とする。	弾道諸元センサ	レーザ測遠機からなる。	レーザ測遠機	レーザ発振部, レーザ受光部及びインターフェース基板からなり, 筐体に納めた構造とする。砲手用視察照準装置に取付けるための光学的及び機械的インターフェースを有する。	砲塔通信装置	GS-C215816及び“車載装置”と接続するための電氣的及び機械的インターフェースを有する。	砲塔装置	バスケット, 砲塔ハッチ, 旋回ベアリング部, 座席, 砲塔弾薬架及び防危板からなる。	バスケット	座席などを配置できる構造とし, 側面に安全のための枠などを有し, 底面中央にはスリップリングを固定できる構造とする。	砲塔ハッチ	車長ハッチ及び装填手ハッチからなる。 砲塔シェル上面に装着し, 特殊鋼板により構成される。車長ハッチは内部より開閉, 装填手ハッチは外部及び内部より開閉できる構造とする。	旋回ベアリング部	ワイヤーレースクロスローラ構造とし, 車体部との機械的インターフェースを有する。	座席	車長用座席, 砲手用座席及び装填手用座席からなる。	車長用座席	着座位置が調整でき, 座面が折畳める構造とする。	砲手用座席	着座位置が調整でき, 背もたれが取外し可能な構造とする。	装填手用座席	折畳み可能な構造とする。	砲塔弾薬架	砲塔シェル内部に配置し, 弾薬を格納できる構造とする。	防危板	車長用防危板及び砲手用防危板などからなる。
				操作パネル	車長用パネル, 砲手用パネル, 砲手用サイドパネル, 装填手用パネル, 非常停止パネル, パネル制御器及び非常撃発用バッテリーからなる。																																														
				車長用パネル	射撃統制に必要なスイッチ及び表示灯を筐体の表面に配置した構造とする。																																														
				砲手用パネル	射撃統制に必要なスイッチ及び表示灯を筐体の表面に配置した構造とする。																																														
				砲手用サイドパネル	射撃統制に必要なスイッチ及び表示灯を筐体の表面に配置した構造とする。																																														
				装填手用パネル	装填に必要なスイッチ及び表示灯を筐体の表面に配置した構造とする。																																														
				非常停止パネル	非常停止スイッチを筐体の表面に配置した構造とする。																																														
				パネル制御器	制御基板, リレー基板及びレーザ検知の信号処理部を筐体に納めた構造とする。																																														
				非常撃発用バッテリー	小型電池を筐体に納めた構造とする。																																														
				表示部	車長用表示器及び砲手用表示器からなる。																																														
				車長用表示器	表示部, 制御基板などからなり, 筐体に納めた構造とする。																																														
				砲手用表示器	表示部, 制御基板などからなり, 筐体に納めた構造とする。																																														
				弾道諸元センサ	レーザ測遠機からなる。																																														
				レーザ測遠機	レーザ発振部, レーザ受光部及びインターフェース基板からなり, 筐体に納めた構造とする。砲手用視察照準装置に取付けるための光学的及び機械的インターフェースを有する。																																														
				砲塔通信装置	GS-C215816及び“車載装置”と接続するための電氣的及び機械的インターフェースを有する。																																														
				砲塔装置	バスケット, 砲塔ハッチ, 旋回ベアリング部, 座席, 砲塔弾薬架及び防危板からなる。																																														
				バスケット	座席などを配置できる構造とし, 側面に安全のための枠などを有し, 底面中央にはスリップリングを固定できる構造とする。																																														
				砲塔ハッチ	車長ハッチ及び装填手ハッチからなる。 砲塔シェル上面に装着し, 特殊鋼板により構成される。車長ハッチは内部より開閉, 装填手ハッチは外部及び内部より開閉できる構造とする。																																														
				旋回ベアリング部	ワイヤーレースクロスローラ構造とし, 車体部との機械的インターフェースを有する。																																														
				座席	車長用座席, 砲手用座席及び装填手用座席からなる。																																														
				車長用座席	着座位置が調整でき, 座面が折畳める構造とする。																																														
				砲手用座席	着座位置が調整でき, 背もたれが取外し可能な構造とする。																																														
				装填手用座席	折畳み可能な構造とする。																																														
				砲塔弾薬架	砲塔シェル内部に配置し, 弾薬を格納できる構造とする。																																														
				防危板	車長用防危板及び砲手用防危板などからなる。																																														

表 3—構造 (続き)

名称		構造			
機動戦闘車 (続き)	(続き)	砲塔防護部	レーザ検知装置，発煙弾発射機からなる。		
		レーザ検知装置	検知器などからなる。		
		発煙弾発射機	GW-Y102002による。		
	車体部	車体部		車筐，車体装置部及び車体防護部からなる。また操縦手1名が搭乗する構造を有する。	
		車筐	車筐		<p>a) 車筐は，特殊鋼板などの溶接構造とし，各構成面（正面，側面，後面，上面及び底面）の他，内部隔壁，動力室，砲塔搭載部，操縦室などからなる。</p> <p>b) 各構成面などには，車体部の各装置を搭載できる取付座を設ける。</p> <p>c) 動力室は，車筐前方左側に位置し，内部隔壁で仕切られ，上面の一部を取外すことによって動力装置の卸下車載用開口部となる構造とする。また，機関排気口並びに冷却空気吸入口及び排風口にラチスを設ける構造とする。ただし，付加装甲I型（附属書C）搭載車両については，排風口ラチスは附属しないものとする。</p> <p>d) 砲塔搭載部は，車筐中央部に位置し，上部には砲塔部を搭載可能なレースマウントを設ける。</p> <p>e) 操縦室は，車筐前方右側に位置し，上方に操縦手用ハッチ用開口部を設ける。</p> <p>f) 車筐前後にけん引フックを設ける。</p> <p>g) 必要箇所に機関検油口，変速機検油口，冷却装置給水口，燃料給油口，排水口，点検口などを設ける。</p> <p>h) 車筐後部にハッチを設ける。</p> <p>i) 付加装甲部及び操縦手用風防装置を取付けられる機械的インターフェースを有する。</p>
			車体装置部		操縦装置，タイヤ・懸架装置，車体電気装置，動力装置，動力伝達装置，車体装置，車体通信装置などからなる。
			操縦装置		操向装置，視察装置，操縦手用表示・操作装置，アクセル装置，ブレーキ装置，変速装置及び操縦手用暗視装置からなる。
			操向装置		操作部，リンク装置，倍力装置などからなる。
			視察装置		プリズムなどからなる潜望鏡構造とし，操縦手用ハッチにボルト止めする構造とする。
			操縦手用表示・操作装置		操縦手用表示器及び操縦手用パネルなどからなる。
			操縦手用表示器		スイッチ類を表面に配置した筐体にモニタ及び制御基板を収めた構造とする。
			操縦手用パネル		操縦に必要な各種操作スイッチ類及び表示灯を配置した構造とする。
			アクセル装置		センサを内蔵したアクセル操作部などからなる。
			ブレーキ装置		常用ブレーキ操作部，駐車ブレーキ操作部，バルブ類，配管，ハーネスなどからなる。

表 3-構造 (続き)

		名称	構造		
機動戦闘車 (続き)	車体部 (続き)	車体装置部 (続き)	操縦装置 (続き)	変速装置	シフトセレクトなどからなる。
				操縦手用暗視装置	赤外線カメラを筐体に納め、車筐に取付ける構造とする。
			タイヤ・懸架装置	ブレーキ	a) 常用ブレーキ、駐車ブレーキなどからなる。 b) 常用ブレーキは、二系統作動方式の全輪作動型ディスクブレーキ構造とする。 c) 駐車ブレーキは、後軸作動型機械式ディスクブレーキ構造とする。
				懸架装置	油気圧ユニット、サスペンションアームなどからなり、ダブルウィッシュボーン式独立懸架構造とする。
				ホイール・タイヤ	a) ホイールは、サイズ 20×10.00 とし、ランフラットコア及びタイヤが取付けられる構造とする。 b) タイヤは、サイズ 395/85R20 のチューブレスタイヤとする。
				車体電気装置	電源装置、制御装置、灯火類及び外部給電コンセントからなる。
			電源装置	バッテリー、電気接続箱、サーボ用昇圧コンバータ、電源ユニット、バッテリースイッチなどからなる。	
			制御装置	a) 変速機制御器、機関接続箱、車体制御器などからなる。 b) 変速機制御器は、筐体、電気回路などからなる。 c) 機関接続箱は、筐体、電気回路、制御カードなどからなる。 d) 車体制御器は、筐体、電気回路、制御カードなどからなる。	
			灯火類	前照灯、尾灯、制動灯、後退灯、車幅灯、管制車幅灯、方向指示器、管制運転灯、管制尾灯、管制制動灯、操縦手用室内灯、警音器などからなる。	
			外部給電コンセント	コネクタ、取付けブラケットなどからなる。	
			動力装置	機関、変速機、ギヤボックス及び冷却装置からなる。	
			機関	a) 機関は機関部及び動力取出装置からなり、4サイクル水冷ディーゼルエンジンとする。 b) 機関部は、機関本体、過給装置及び機関補機からなる。 c) 機関本体は、シリンダヘッド、動弁装置、クランクケース、オイルパン、主動部装置、歯車装置、給排気装置、潤滑油装置、冷却水装置、燃料装置、車筐固定装置などからなる。 d) 過給装置は、可変ノズル排気ターボ過給器などからなる。 e) 機関補機は、スタータ、始動補助装置などからなる。 f) 動力取出装置は、歯車、軸、軸受、ケース、エアコンプレッサ、発電機などからなる。	

表 3-構造 (続き)

		名称	構造		
機動戦闘車 (続き)	車体部 (続き)	車体装置部 (続き)	動力装置 (続き)	変速機 前進 6 段・後進 1 段のトルクコンバータ付遊星歯車式自動変速機とする。	
			ギヤボックス 歯車, 軸, 軸受, ケースなどからなる。		
			冷却装置 a) 冷却系統, 冷却ファン装置及び油圧装置からなる。 b) 冷却系統は, 各種クーラ, サーモスタット, タンク, 弁類, 配管などからなる。 c) 冷却ファン装置は, 冷却ファン, 架台などからなる。 d) 油圧装置は, 油圧ポンプ, 油圧モータ, タンク, 弁類, 配管などからなる。		
				動力伝達装置	トランスファ, デファレンシャル, デフロック装置, ハブリダクション及びプロペラシャフトからなり, 8 輪を駆動できる構造とする。
				トランスファ	歯車, 軸, 軸受, ケース, 潤滑機構などからなる。
				デファレンシャル	歯車, 軸, 軸受, ケース, 潤滑機構などからなる。
				デフロック装置	電磁バルブ, 配管などからなる。
				ハブリダクション	歯車, 軸, 軸受, ケースなどからなり, ホイールを取付けられる構造とする。
				プロペラシャフト	自在継手, 軸などからなる。
				車体装置	吸排気装置, 操縦手用ハッチ, 燃料装置, 操縦手用座席及び車体弾薬架からなる。
				吸排気装置	エアクリーナ, ダストブロワ, 吸排気管などからなる。
				操縦手用ハッチ	車筐上面に装着し, 特殊鋼板のハッチ本体, スライド式開閉機構, ワイパなどからなり, 外部及び内部より開閉できる構造とする。視察装置が取付けられる構造とする。
				燃料装置	燃料タンク, 燃料フィルタ, 燃料圧送ポンプ, 燃料クーラ, 弁類, 配管などからなる。
				操縦手用座席	操縦手用座席, ヘッドレストなどからなる。
				車体弾薬架	弾薬を格納でき, 車筐から取り外し可能な構造とする。
				車体通信装置	車載装置と接続するための電氣的及び機械的インターフェースを有する。
				その他	機動戦闘車 (ウインチ装置付) については, ウインチ装置を加えるものとする。
				ウインチ装置	ワイヤロープ, 油圧モータ, ドラム, ワイヤロープ支持部, ワイヤロープ操作部 (車内) 及び油圧配管などからなる。

表 3-構造 (続き)

名称		構造	
機動戦闘車 (続き)	車体部 (続き)	車体防護部	特殊武器防護装置, 消火装置, ランフラットコアからなる。
		特殊武器防護装置	ブロワ, フィルタなどからなり, フィルタは着脱可能な構造とする。
		消火装置	a) 乗員室消火装置及び動力室消火装置からなる。 b) 乗員室消火装置は, サプレッサ, オートバルブ, 噴射ノズル, 配管などからなる。 c) 動力室消火装置は, 消火剤, センサ, 配線などからなる。
		ランフラットコア	ランフラットコアはリング状の一体形とし, タイヤ・ホイールと結合する構造とする。

2.5 機能

機能は、表4による。

表4—機能

名称	機能
機動戦闘車	<p>a) 射撃統制装置，表示・操作装置，砲・砲塔駆動装置，弾道諸元センサなどによって，走行間射撃できる機能を有する。</p> <p>b) 操縦席周辺に配置された各種操作装置，各種スイッチなどにより容易に操縦を行うことができ，車体部前方に搭載された動力装置から，動力伝達装置を経てタイヤを駆動し，走行する機能を有する。</p> <p>c) レーザ検知と連動して発煙弾を発射できる機能を有する。</p> <p>d) 特殊武器防護機能及び自動消火機能を有する。</p> <p>e) 指揮統制装置（附属書C）により，GS-C215816を介して指揮統制に関する情報を共有できる機能を有する。</p> <p>f) GS-C685038のGS-C685404が車両と接続できる機能を有する。</p> <p>g) ウインチ装置を装着し，対象物をけん引できる機能を有する（表1の番号2のみ。）</p>
砲塔部	射撃統制装置，表示・操作装置，砲・砲塔駆動装置，弾道諸元センサなどによって射撃を行う機能を有する。
火器部	GW-Y120019に規定する各種弾薬を射撃できるとともに，安全性を確保するものとする。
105mm施線砲	GW-Y120019による。
副火器	乗員の操作によりCP-Y-0013及びGW-Y201102を射撃できる機能を有する。
車載機関銃部	CP-Y-0013を搭載し，105mm施線砲用の射撃統制装置を利用して射撃できる機能を有する。
機関銃弾箱	弾列を格納できる機能を有する。
冷却ブロウ	CP-Y-0013の射撃時に作動し，機関銃銃身に対し空気を送風することで銃身の温度上昇を抑制する機能を有する。
車載機関銃用托架	CP-Y-0013を搭載し，105mm施線砲と同軸に保持する機能を有する
車外機関銃部	乗員の操作により他機器との干渉範囲を除き射撃ができる機能を有する。
車外機関銃用銃架	GW-Y201102を保持し，他機器との干渉範囲を除きふ仰及び旋回できる機能を有する。
砲塔シェル	<p>a) 火器部，砲塔装置部，砲塔防護部などを搭載できる機能を有する。</p> <p>b) 射撃抗力及び機動による各種外力に対し耐え得る強度，剛性を有する。</p>
砲塔装置部	105mm施線砲をふ仰させる機能，砲塔部を旋回させる機能，データを伝送・処理する機能及び可視・赤外線映像を撮像・表示する機能を有する。

表 4-機能 (続き)

機動戦闘車 (続き)		砲塔部 (続き)	砲塔装置部 (続き)	名称	機能
				砲・砲塔駆動装置	砲電力増幅器の駆動用電力により旋回用モータ及び高低用モータを駆動し、また、手動操作により砲塔部の旋回、105mm施線砲のふ仰を行わせる機能などを有する。
				砲塔旋回装置	<ul style="list-style-type: none"> a) 旋回用モータによる電力駆動又は旋回ハンドルによる手動操作により砲塔を旋回する機能を有する。 b) 砲塔旋回角検出器により検出された砲塔の角度を、照準制御部に送信する機能を有する。 c) ノーバック機能及びバックラッシュ除去機能を有する。
				砲高低装置	<ul style="list-style-type: none"> a) 高低用モータによる電力駆動又は高低ハンドルによる手動操作により砲をふ仰する機能を有する。 b) 砲ふ仰検出器により検出された砲の角度を、照準制御部に送信する機能を有する。 c) ノーバック機能及びバックラッシュ除去機能を有する。
				砲固定装置	105mm施線砲と砲塔シェル内上面を機械的に固定・解放できる機能を有する。
				砲塔固定装置	旋回ベアリング部の回転部を機械的に固定・解放できる機能を有する。
				砲塔電気装置	<ul style="list-style-type: none"> a) 砲電力増幅器は、照準制御部からのサーボ信号に基づき旋回用モータ及び高低用モータに駆動用電力を供給する機能を有する。また、異常情報などを照準制御部に送信する機能を有する。 b) 電磁開閉器は、スリップリングを介して供給された電力を各装置に配分する機能を有する。
				スリップリング	砲塔部が旋回状態にあっても車体部又は外部からの電力を砲塔部へ供給し、車体部との間で電気信号を伝送する機能を有する。
				射撃統制装置	次に示す各機能を有する。
				射撃統制制御器	各機器の動作指令などを生成する機能を有する。また、自己診断機能を有する。
				統合制御部	<ul style="list-style-type: none"> a) 弾道計算機能、視察照準装置制御指令生成機能、砲・砲塔制御指令生成機能などを有する。 b) 表示・操作装置からの情報を基に、射撃統制操作情報を生成する機能及び映像処理部に対する表示指令を生成する機能を有する。 c) 弾道諸元センサ、射撃統制操作情報などから、旋回・ふ仰の見越し角、飛翔時間を算出する機能を有する。 d) 射撃統制操作情報及び射撃統制装置の情報を基に砲塔モードを管理する機能を有する。

表 4-機能 (続き)

名称		機能				
機動戦闘車 (続き)	砲塔部 (続き)	砲塔装置部 (続き)	射撃統制装置 (続き)	射撃統制制御器 (続き)	照準制御部	a) 視察照準装置及び砲・砲塔を追尾させる機能を有する。 b) 視察照準装置及び砲・砲塔駆動装置へのサーボ・シーケンス信号生成機能を有する。 c) 視察照準装置及び砲・砲塔の安定化に関する機能を有する。 d) 映像処理部からの追尾指令に追従させる機能を有する。
					映像処理部	a) 視察照準画面生成機能及び追尾機能を有する。 b) 電子変倍機能を有する。 c) 追尾信号を生成し、照準制御部へ送出する機能を有する。
				視察照準装置	目視視察できる機能及び視察照準映像を撮像する機能を有する。	
				車長用視察照準装置	視察照準映像を撮像する機能を有する。	
				車長用視察照準装置本体	a) 車長用視察照準装置本体の鏡頭部及びふ仰ミラー部を回転し、その位置及び角速度をセンサ信号として照準制御部へ出力する機能を有する。 b) 赤外線カメラ光学系は、倍率切換及び焦点の遠隔調整機能を有する。	
				赤外線カメラ	赤外線映像を撮像し、映像信号を出力する機能を有する。	
				砲手用視察照準装置	視察照準映像を撮像する機能を有する。	
				砲手用視察照準装置本体	a) 砲手用視察照準装置本体のふ仰ミラー部を回転し、その位置及び角速度をセンサ信号として照準制御部へ出力する機能を有する。 b) 可視カメラ光学系は、焦点、絞りの遠隔調整機能を有する。 c) 赤外線カメラ光学系は、焦点の遠隔調整機能を有する。	
				可視カメラ	可視映像を撮像し、映像信号を出力する機能を有する。	
				赤外線カメラ	赤外線映像を撮像し、映像信号を出力する機能を有する。	
				直接照準眼鏡	目標を光学系によって照準できる機能を有する。	
				視察装置	目視にて車内から車外を視察できる機能を有する。	
				慣性装置	車両の姿勢角、角速度などを検出する機能を有する。	
				砲ふ仰ジャイロ	砲ふ仰方向の空間角速度を検出する機能を有する。	
				表示・操作装置	a) ハンドル操作信号をパネル制御器へ出力する機能を有する。 b) スイッチ操作信号を射撃統制制御器、電磁開閉器へ出力し、表示灯によって状態を確認できる機能を有する。 c) 視察照準画面を表示する機能を有する。	

表 4-機能 (続き)

		名称	機能		
機動戦闘車 (続き)	砲塔部 (続き)	砲塔装置部 (続き)	表示・操作装置 (続き)		
				操作ハンドル	ハンドル操作信号及びスイッチ操作信号をパネル制御器へ出力する機能を有する。
				車長用ハンドル	a) ハンドルのふ仰・旋回操作信号をパネル制御器へ出力する機能を有する。 b) 火器を選択するスイッチの切替えに応じた105mm施線砲又はCP-Y-0013の撃発, レーザ測距などの操作信号をパネル制御器へ出力する機能を有する。
				砲手用ハンドル	a) ハンドルのふ仰・旋回操作信号をパネル制御器へ出力する機能を有する。 b) 火器を選択するスイッチの切替えに応じた105mm施線砲又はCP-Y-0013の撃発, レーザ測距などの操作信号をパネル制御器へ出力する機能を有する。
				操作パネル	乗員によるスイッチ操作情報を射撃統制制御器などへ出力し, また, 乗員に対して状態を表示する機能を有する。
				車長用パネル	車長のスイッチ操作信号をパネル制御器などへ出力する機能及び表示灯によって状態を確認できる機能を有する。
				砲手用パネル	砲手のスイッチ操作信号をパネル制御器などへ出力する機能及び表示灯によって状態を確認できる機能を有する。
				砲手用サイドパネル	砲手のスイッチ操作信号をパネル制御器などへ出力する機能及び表示灯によって状態を確認できる機能を有する。
				装填手用パネル	装填手のスイッチ操作信号をパネル制御器などへ出力する機能及び表示灯によって状態を確認できる機能を有する。
				非常停止パネル	装填手のスイッチ操作信号をパネル制御器などへ出力する機能を有する。
				パネル制御器	車長用パネル, 砲手用パネル, 砲手用サイドパネル, 装填手用パネル, 非常停止パネル, 車長用ハンドル及び砲手用ハンドルの信号を入力・集約し, 射撃統制制御器へ出力する機能を有する。
				非常撃発用バッテリー	非常撃発用の電源を供給する機能を有する。
				表示部	射撃統制装置で生成する情報, 視察照準映像などを表示する機能などを有する。
				車長用表示器	a) 視察照準画面を表示する機能を有する。 b) タッチパネルからの操作入力に関する通信を行う機能を有する。
				砲手用表示器	a) 視察照準画面などを表示する機能を有する。 b) タッチパネルからの操作入力に関する通信を行う機能を有する。

表 4-機能 (続き)

機動戦闘車 (続き)		名称	機能		
機動戦闘車 (続き)	砲塔部 (続き)	砲塔装置部 (続き)	弾道諸元センサ	弾道計算に必要な射距離を検出する機能を有する。	
			レーザ測遠機	a) レーザ発振部は、パルスレーザを発振し、発射する機能を有する。 b) レーザ受光部は、発射したレーザの反射波を受光する機能を有する。 c) インターフェース基板は、レーザ発射の制御及び発射から受光までのタイミングを計測し、目標までの距離を演算し、射撃統制制御器へ送出する機能を有する。	
			砲塔通信装置	乗員相互の車内通話及び車外相互の無線通話、データ通信ができる機能を有する。	
			砲塔装置	砲塔シェルとの結合によって、砲塔部の乗員が着座あるいは立姿状態にて指揮・射撃統制操作を行うことができる乗員空間を構成し、また弾薬、機関銃弾箱及び砲塔電気装置を保持する機能を有する。	
			バスケット	砲塔シェルと機械的に接続し、乗員室を形成する機能を有する。	
			砲塔ハッチ	手動で開閉でき、乗員が出入りすることができるとともに、開放状態又は密閉状態で保持・固定できる機能を有する。	
			旋回ベアリング部	砲塔部と車体部をボルトにより接続する機能を有する。	
			座席	次の機能を有する。	
			車長用座席	着座位置が調整でき、座面の折り畳みによって立姿状態を可能とする機能を有する。	
			砲手用座席	着座位置が調整できる機能を有する。	
			装填手用座席	折り畳みできる機能を有する。	
			砲塔弾薬架	弾薬を固定でき、弾薬使用時には容易に解放できる機能を有する。	
			防危板	車長・砲手と砲可動部を遮蔽する機能などを有する。	
			砲塔防護部	乗員の安全を確保する機能を有する。	
				レーザ検知装置	外部から照射されたレーザ光の方向を検出し、出力する機能を有する。
				発煙弾発射機	GW-Y102002によるものとし、乗員のスイッチ操作により発射できるとともに、レーザ検知装置と連動し発射できる機能を有する。

表 4-機能 (続き)

	名称	機能
機動戦闘車 (続き)	車体部	動力装置, タイヤ・懸架装置, 操向装置などによって走行できる機能を有する。
	車筐	a) 車体装置部及び車体防護部を搭載できる機能を有する。 b) 射撃抗力及び機動による各種外力に対し耐え得る強度・剛性を有する。
	車体装置部	次に示す各機能を有する。
	操縦装置	次に示す各機能を有する。
	操縦手用表示・操作装置	次に示す機能を有する。
	操縦手用表示器	車両の情報などを表示する機能を有する。
	操縦手用パネル	スイッチ操作信号を車体各部の装置に出力する機能などを有する。表示灯などにより状態を確認できる機能を有する。
	操向装置	ステアリングハンドルの操作角に応じて, 操向車輪の角度を変位する機能を有する。また, 倍力装置により操作力を軽減する機能を有する。
	視察装置	目視にて車内から車外を視察できる機能を有する。
	アクセル装置	機関回転速度制御に必要なアクセル操作量を電気信号として機関接続箱へ出力する機能を有する。
	ブレーキ装置	常用ブレーキ操作部は, 操作量に応じ制動力を調整する機能を有する。また, 駐車ブレーキ操作部は駐車ブレーキを作動及び解除できる機能を有する。
	変速装置	変速機の変速範囲及び前後進を変更できる機能を有する。
	操縦手用暗視装置	夜間無灯火にて車外を視察できる機能を有する。
	タイヤ・懸架装置	機動及び射撃による車両振動・動揺の緩衝並びに車両の支持機能を有する。
	ブレーキ	a) 常用ブレーキは全ての車輪を制動できる機能を有する。 b) 駐車ブレーキは動力装置の運転状態にかかわらず後軸の車輪を制動できる機能を有する。
	懸架装置	a) 機動及び射撃による車両振動・動揺を緩衝する機能を有する。 b) 車筐とタイヤ・ホイールを連結し, 車筐を支持するとともに, タイヤを接地させ正しい方向を保持する機能を有する。
	ホイール・タイヤ	車両を支持するとともに, 路面からの衝撃を緩衝し, 駆動・制動・旋回などの力を路面に伝達する機能を有する。
	車体電気装置	次に示す各機能を有する。
	電源装置	機関で発電した電力の蓄積機能, 電圧の変換機能, 制御装置・灯火類などへの電力供給機能などを有する。また, 砲塔部への電力供給機能を有する。
	制御装置	a) 構成する各制御器間で制御データの授受を行う機能を有する。車体試験器などを接続し, 制御器内部データの出力ができる機能を有する。また, 自己診断機能を有する。 b) 変速機制御器は, 変速装置からの信号などに基づき, 変速機の制御を行う機能を有する。 c) 機関接続箱は, スタータ及び始動補助装置を駆動する機能, アクセル操作量などにより機関の燃料噴射量を制御する機能を有する。また, 各種センサ信号に基づき機関過給装置

表 4-機能 (続き)

		名称	機能	
機動戦闘車 (続き)	車体部 (続き)	車体装置部 (続き)	制御装置	に信号を出力する機能を有する。 d) 車体制御器は、各スイッチ類操作及び各制御器の状態などに基づき、操縦手用表示・操作装置に状態表示の指令をする機能などを有する。また、砲塔部と電気信号を授受する機能を有する。
			灯火類	車両運行に必要な灯火機能を有する。
			外部給電コンセント	同一電圧系のお車両などから電力の授受ができる機能を有する。
			動力装置	制御装置からの制御により駆動力を発生するとともに発電する機能を有する。
			機関	a) 機関部は、機関接続箱の指令に基づき動力を発生する機能を有する。 b) 動力取出装置は、機関本体からの動力を取り出すとともに、発電などを行う機能を有する。
			変速機	変速機制御器からの指令に基づき、適切な減速比に設定する機能及び回転方向を切り換える機能を有する。また、速度段によってはロックアップ機能を有する。
			ギヤボックス	変速機からの出力を動力伝達装置に伝達する機能を有する。
			冷却装置	a) 冷却系統は、冷却空気と各冷媒との間で熱交換できる機能を有する。 b) 冷却ファン装置は、クーラの熱交換に必要な冷却空気を送風できる機能を有する。 c) 油圧装置は、冷却ファンを駆動する機能を有する。
			動力伝達装置	動力装置からの出力を車輪駆動力に変換する機能を有する。
			トランスファ	a) ギヤボックスからの出力を前軸と後軸及び左右ハブリダクションに分配する機能を有する。また、前後軸及び左右輪の差動を吸収する機能を有する。 b) デロック装置により、前後軸及び左右輪の差動の吸収を停止できる機能を有する。
			デファレンシャル	a) トランスファからの出力を各軸の左右ハブリダクションに分配する機能を有する。また、前後軸及び左右輪の差動を吸収する機能を有する。 b) デロック装置により、前後軸及び左右輪の差動の吸収を停止できる機能を有する。
			デロック装置	トランスファ及びデファレンシャルの差動吸収機能を停止する機能を有する。
			ハブリダクション	デファレンシャルからの出力を減速し、車輪駆動力に変換する機能を有する。
			プロペラシャフト	動力装置からの出力をトランスファに、トランスファからの出力をデファレンシャルに伝達する機能を有する。

表 4-機能 (続き)

		名称	機能		
機 動 戦 闘 車 (続 き)	車 体 部 (続 き)	車 体 装 置 部 (続 き)	車体装置	次に示す各機能を有する。	
			吸排気装置	機関に必要な燃焼用空気を車外から取入れ砂じんなどを除去する機能及び排気を車外に排出する機能を有する。	
			操縦手用ハッチ	ハッチ本体を手動などで開閉でき、開放状態又は密閉状態で保持・固定できる機能を有する。	
			燃料装置	燃料の貯蔵、冷却、ろ過及び機関への供給機能を有する。	
			操縦手用座席	操縦手の体格に合わせ座席位置を移動できるとともに、ハッチ開放操縦姿勢及び密閉操縦姿勢に対応した座席位置に変更できる機能を有する。	
			車体弾薬架	弾薬を固定でき、弾薬使用時には容易に解放できる機能を有する。	
				車体通信装置	乗員相互の車内通話及び乗員と車外相互の無線通話ができる機能を有する。
				ウインチ装置	a) ワイヤロープ操作部の操作によりワイヤロープの繰り出し及び巻取りが行え、対象物をけん引できる機能を有する。 b) ワイヤロープ支持部は、ウインチ操作時の外力に対し耐え得る機能を有する。
				車体防護部	乗員の安全を確保する機能を有する。
				特殊武器防護装置	有毒化学剤などに汚染された環境下において、乗員へ浄化された空気を供給する機能を有する。
				消火装置	乗員室内及び動力室内の火災を自動又は手動で消火する機能を有する。
				ランフラットコア	タイヤ・ホイールと結合した状態にて、タイヤ空気圧が抜けた状態でも車両支持できる機能を有する。

2.6 形状・寸法等

形状及び寸法などは、**図 1** 及び**表 5** を標準とする。

なお、細部については、承認図面によるものとし **ア** は、**別冊第 2** による。

表 5—寸法など

項目		諸元	注記
機 動 戦 闘 車	全長	8 450 mm	ウインチ装置を除く。
	全幅	2 980 mm	付加装甲部を除く。
	全高	2 870 mm	—
	最低地上高	ア mm	—
	軸間距離	—	—
	1-2 軸間		—
	2-3 軸間		—
	3-4 軸間		—
	乗員	4 名 (車長, 砲手, 装填手, 操縦手)	—
砲 塔 部	全長	7 610 mm	突起部を除く。
	全幅	2 400 mm	砲塔最大幅
	全高	1 610 mm	バスケット底面から砲塔シェル上面
	乗員	3 名 (車長, 砲手, 装填手)	—
	搭載火器	a) 105 mm 施線砲砲座付き	GW-Y120019
		b) 12.7 mm 重機関銃	GW-Y201102
c) 74 式車載 7.62 mm 機関銃 (B)		CP-Y-0013	
車 体 部	全長	7 550 mm	付加装甲部, ウインチ装置を除く。
	全幅	2 980 mm	付加装甲部を除く。
	全高	1 750 mm	車体上面まで
	乗員	1 名 (操縦手)	—

2.7 質量

機動戦闘車の空車質量¹⁾は 2.5 t 以下, 全備質量²⁾は 2.6 t 以下とする。ただし, 機動戦闘車 (ウインチ装置付) を除く。

注¹⁾ 空車質量とは, 機動戦闘車に燃料, 油脂などを全量搭載し, 携行工具, 車載用の附属品及び予備品を取付け位置などに収納した状態 (以下“空車状態”という。) の質量をいう (拡張性対応装置のうち, 付加装甲Ⅲ型及び特殊附属品は含まない。)

注²⁾ 全備質量とは, 空車状態の機動戦闘車に, 乗員 4 名 (車長, 砲手, 装填手及び操縦手) 搭載火器 (**GW-Y201102** 及び **CP-Y-0013**), 弾薬を積載した状態の質量をいう。

2.8 外観

外観は, **図 1** によるものとし, 機能上有害なきず, 割れ, まくれ, さびなどがなく, 表面処理, 塗装はむらなく仕上げられていなければならない。

2.9 諸元・性能

諸元及び性能は、**附属書B**によるものとし、細部については、承認図面による。

2.10 拡張性対応装置等

拡張性対応装置等の構造、機能、性能及び諸元は、**附属書C**による。

なお、拡張性対応装置等を調達する場合は、調達要領指定書によって指定するものとし、細部については、承認図面による。

2.11 燃料・油脂

この機動戦闘車に使用する燃料及び油脂は、**表6**に示すものを標準とする。

表6—燃料・油脂

番号	区分	種類	規格
1	燃料	軽油2号及び軽油4号	DSP K 2209
2	機関潤滑油	ディーゼルエンジン油（CF級以上） 15W-40又は10W-30	GQ-K000044
3	動力取出装置潤滑油	ディーゼルエンジン油（CF級以上） 15W-40	GQ-K000044
4	変速機油	自動変速機油	DEXRONIII相当
5	操向装置作動油		
6	冷却装置作動油		
7	砲塔ギヤボックス潤滑油 （旋回、高低）	自動変速機油	GQ-K000049
8	ギヤボックス潤滑油	ディーゼルエンジン油（CF級以上） 15W-40	GQ-K000044
9	トランスファ潤滑油	マルチグレードギヤ油（GL-5以上） 80W-90	GQ-K000045
10	デファレンシャル 潤滑油		
11	ハブリダクション 潤滑油		
12	グリース	はん（汎）用グリース	DSP K 2241
		精密機器用グリース	DSP K 2239

2.12 塗装

塗装は、十分な防せい処理及び下塗りを行った後に、上塗りの処置を行うものとするほか次による。

a) 塗色は、**NDS Z 8201**の色番号、色名及び色番号とし、**表7**を標準とする。

表 7-塗色

番号	部位	塗色	注記
1	機動戦闘車外部 (防護部含む)	2 3 1 4 [OD色 7.5Y3/1]	—
		3 4 1 4 [濃緑色 (迷彩用) 7.5GY3/1] 3 6 0 6 [茶色 (迷彩用) 2.5Y3.5/1.5]	
		黒 (耐熱塗装)	製造者仕様
2	機動戦闘車内部	2 8 0 1 [白(1) N9.5] 2 3 1 4 [OD色 7.5Y3/1]	動力室内及び常時開閉し、かつ、開放時に内面が露出するハッチ、ドアなどの内面についてはOD色とする。
3	動力装置	2 3 1 4 [OD色 7.5Y3/1]	—
4	機関潤滑油系統配管	1 3 0 7 [山吹色(2) 2.5Y8/12]	—
5	燃料系統配管	2 2 0 5 [黄赤 2.5YR6/13]	—
6	冷却系統配管	1 3 0 7 [山吹色(2) 2.5Y8/12]	—
		1 4 1 1 [緑(1) 2.5G4.5/5]	
		1 5 0 6 [サックスブルー 2.5PB5.5/4.5]	
		2 3 1 4 [OD色 7.5Y3/1]	
7	油圧系統配管	1 3 0 7 [山吹色(2) 2.5Y8/12]	—
		1 5 0 6 [サックスブルー 2.5PB5.5/4.5]	
		2 3 1 4 [OD色 7.5Y3/1]	
8	エア系統配管	2 3 1 4 [OD色 7.5Y3/1]	—
9	排気系統配管	銀色 (耐熱塗装)	製造者仕様
10	消火系統配管及び給油脂部	1 1 0 4 [赤(1) 5R4/13]	—
11	消火装置ポンペ	2 7 0 4 [灰色(2) N5]	—
12	電子機器	2 8 0 1 [白(1) N9.5]	—
		2 3 1 4 [OD色 7.5Y3/1]	
		2 8 1 1 [黒(1) N2]	

b) 塗料は、次による。

1) 機動戦闘車外部は、GQ-K000040による。

なお、無鉛塗料については、使用することができるものとする。

塗装要領は、OD色を塗装した後、迷彩塗装をするものとする。塗装の様子は、図2を標準とする。

2) 車両内部は、JIS K 5572, DSP K 5201又はDSP K 5218を標準とする。

なお、無鉛塗料については、使用することができるものとする。また、JIS K 5651 (エナメル2種2号) などの焼付塗料を使用することができるものとする。

- c) 車両おおいなどの染色は、OD色、NDS Z 8201の色番号2314とし、防水、防火及び防ばい加工が施されているものとする。

2.13 電磁干渉

電磁干渉は、NDS C 0011を考慮し、砲塔部及び車体部の使用に支障がないものとする。

2.14 製品の表示

製品の表示は、次によるほか、GLT-CG-Z000001の2.3による。

なお、細部については、承認図面による。

- a) NDS Z 8011による1種銘板を車体の見やすい位置に取付けるものとする。
- b) 自動車番号及び陸上自衛隊の標識は、“自衛隊の使用する自動車に関する訓令”に基づき表示するものとする。
- c) 各操作部の操作要領、計器類の名称、収納部品名、取扱い上の注意事項などその他必要な事項を表示するものとする。

2.15 品質管理

品質管理は、DSP Z 9008によるものとし、基本要件は表1のbによる。

3 品質保証

3.1 試験

契約の相手方は、附属書Dに定める要求事項確認要領に基づき、試験などを実施するものとする。

3.2 監督・検査

監督及び検査は、契約担当官等（以下、“担当官”という。）が定める監督・検査実施要領による。

4 出荷条件

出荷条件は、GLT-CG-Z000001の箇条4によるほか、商慣習による。

5 輸送方法

輸送方法は、機動戦闘車の特性を考慮した商慣習による。

6 その他の指示

6.1 官給品・無償貸付品

官給品及び無償貸付品は、調達要領指定書によって指定する場合を除き、GLT-CG-Z000001の箇条5によるほか、次によるものとし、官給及び貸付時期などは、官側との調整による。

- a) **官給品** 官給品は、表8による。ただし、数量は、1両当たりとする。官給品に附属品及び予備品のあるものは、これを含むものとし、官給場所に変更がある場合は、調達要領指定書によって指定する。

表8-官給品

番号	品名		数量	官給場所	注記
1	105mm施線砲砲座付き		1門	契約の相手 方工場	GW-Y120019
2	76mm発煙弾発射機・V		1式		GW-Y102002
3	広帯域多目的無線機 (車両用) ^{a)}	JVRC-ZA210	1式		GS-C215816
4		JVRC-ZA410	1式		
5	車載装置 ^{a)}	JMRA-Z116-D	1式		GS-C296174
6		JMRA-Z116-J	1式		

注記1 番号3の無線機に対応する車載装置はJMRA-Z116-Dとする。
注記2 番号4の無線機に対応する車載装置はJMRA-Z116-Jとする。
注^{a)} 無線機及び車載装置の種類は、調達要領指定書によって指定する。

b) **無償貸付品** 無償貸付品は、機動戦闘車の製作及び検査に用いるため表9のものを貸付けできるものとし、契約の相手方は貸付申請により必要な物品を申請し、貸付けを受けるものとする。ただし、数量は、1契約当たりとする。また、無償貸付品に附属品及び予備品のあるものは、これを含むものとし、貸付け及び返納場所は、調達要領指定書によって指定するものとする。

表9-無償貸付品

番号	品名		数量	注記
1	12.7mm重機関銃 砲塔式		1式	GW-Y201102
2	74式車載7.62mm機関銃(B)		1式	CP-Y-0013
3	5.56mm機関銃MINIMI		1式	GW-Y202502
4	96式40mm自動てき弾銃		1式	CP-Y-0079
5	装甲車帽		2式	GQ-Z000028
6	車載装置	JMRA-Z116-D	3式	GS-C296174
7		JMRA-Z116-J	3式	
8	車載装置(機動戦闘車実用試験車両用)		3式	GS-C295936
9	車載装置	JMRA-Z114-D	3式	番号9の車載装置に必要な警報音源 インターフェースのみを使用
10		JMRA-Z114-J	3式	
11	広帯域多目的無線機(車両用)	JVRC-ZA210	3式	GS-C215816
		JVRC-ZA410	3式	
12	戦闘車端末装置		1式	GS-C685404
13	電子地図		1式	提供形式:分割なし
14	指揮統制ソフトウェア ^{a)}		1式	HV-B730002
15	戦場情報ソフトウェア ^{a)}		1式	

表 9—無償貸付品 (続き)

番号	品名			数量	注記
16	機動戦闘車 (その4) のうち, 機動戦闘車 1号車			1両	—
17	機動戦闘車 (その4) のうち, 機動戦闘車 2号車			1両	—
18	機動戦闘車 実用試験車両のうち, 機動戦闘車 実用試験用車両			1両	—
19	予備部品(機動戦闘車用)	表示・操作用予備部品	パネル制御器	1式	GRD-Z000609
20		射撃統制制御器用予備部品		1式	
21		慣性装置		1式	
22		車体電気装置用予備部品	制御装置用予備部品	車体制御器	
23	機動戦闘車予備品(4)(T-A-7)または機動戦闘車予備品(3)(T-A-6)または機動戦闘車予備品(2)(T-A-19)のうち, いずれかの射撃統制制御器			1式	—
24	車両状況把握装置のうち, 車両状況把握装置Ⅰ型			2台	GRD-Z000606
25	車両状況把握装置のうち, 車両状況把握装置Ⅱ型			1台	
26	実用試験用予備部品(機動戦闘車用)のうち, 試験情報収集装置			2式	GRD-Z000618
注 ^{a)} 特殊附属品のうち指揮統制装置を搭載する場合のみとする。					

6.2 携行工具・附属品・特殊附属品・予備品

携行工具, 附属品, 特殊附属品及び予備品は表 10～表 13 によるものとする。ただし, これらの一部又は全部を調達範囲外とする場合は, 調達要領指定書によって指定するものとする。また, 数量については機動戦闘車 1 両分とする。

表 10—携行工具

番号	品名	規格	数量	物品番号	摘要
1	ソケットレンチ用ソケット	12.7 角ドライブ 10	1 個	5120-000-0515-5	JIS B 4636-1
2	ソケットレンチ用ソケット	12.7 角ドライブ 12	1 個	5120-000-0516-5	
3	ソケットレンチ用ソケット	12.7 角ドライブ 14	1 個	5120-000-0517-5	
4	ソケットレンチ用ソケット	12.7 角ドライブ 17	1 個	5120-000-0518-5	
5	ソケットレンチ用ソケット	12.7 角ドライブ 19	1 個	5120-000-0519-5	JIS B 4636-1
6	ソケットレンチ用ソケット	12.7 角ドライブ 22	1 個	5120-105-1350-5	
7	ソケットレンチ用ソケット	12.7 角ドライブ 24	1 個	5120-312-2052-5	
8	ソケットレンチ用ソケット	12.7 角ドライブ 27	1 個	5120-312-2051-5	
9	ソケットレンチ用ソケット	12.7 角ドライブ 30	1 個	5120-411-5090-5	
10	ソケットレンチ用ソケット	12.7 角ドライブ 32	1 個	5120-000-0524-5	

表 10—携行工具（続き）

番号	品名	規格	数量	物品番号	摘要
11	エキステンションバー	12.7 角 150 mm	1 個	5120-000-0548-5	JIS B 4636-1
12	スピナハンドル	12.7 角 380 mm	1 個	5120-003-3114-5	
13	ラチェットハンドル	12.7 角 250 mm	1 個	5120-000-0497-5	
14	ユニバーサルジョイント	12.7 角 75 mm	1 個	5120-000-0547-5	
15	収納箱	鋼製	1 箱	—	番号 1～14 及び 番号 16～28 を収 納
16	六角棒スパナ	呼び 1.5	1 個	—	JIS B 4648
17	六角棒スパナ	呼び 2	1 個	—	
18	六角棒スパナ	呼び 2.5	1 個	—	
19	六角棒スパナ	呼び 3	1 個	—	
20	六角棒スパナ	呼び 4	1 個	—	
21	六角棒スパナ	呼び 5	1 個	—	
22	六角棒スパナ	呼び 6	1 個	—	
23	六角棒スパナ	呼び 8	1 個	—	
24	六角棒スパナ	呼び 10	1 個	—	
25	六角棒スパナ	呼び 12	1 個	—	
26	六角棒スパナ	呼び 14	1 個	—	
27	六角棒スパナ	呼び 17	1 個	—	
28	六角棒スパナ	呼び 19	1 個	—	
29	ねじ回し	貫通形強力級 8×150	1 個	5120-000-4886-5	JIS B 4609
30	十字ねじ回し	貫通形 H形 2 番	1 個	—	JIS B 4633
31	十字ねじ回し	貫通形 H形 3 番	1 個	5120-000-2106-5	
32	モンキレンチ	全鍛造品 強力級 250 mm	1 個	—	JIS B 4604
33	スパナ やり形 両口	8×10	1 個	5120-258-2636-5	JIS B 4630
34	スパナ やり形 両口	12×14	1 個	5120-006-0448-5	
35	スパナ やり形 両口	13×17	1 個	5120-223-2603-5	
36	スパナ やり形 両口	19×22	1 個	5120-259-8335-5	
37	スパナ やり形 両口	24×27	1 個	5120-259-8336-5	
38	スパナ やり形 両口	30×32	1 個	—	
39	スパナ 丸形 両口	強力級 32×36	1 個	—	
40	プライヤ	200 mm	1 個	—	JIS B 4614
41	ホイールナットレンチ	片口 32	1 個	—	

表 10—携行工具（続き）

番号	品名	規格	数量	物品番号	摘要
42	ハンドル	ホイールナットレンチ 用兼ジャッキ用	1 個	—	
43	ハンマ	片手 450 g	1 個	—	
44	T型スライドハンドル	19 mm 角	1 個	—	JIS B 4636-2
45	エクステンションバー	19 mm 角 400 mm	1 個	—	
46	エクステンションバー	19 mm 角 200 mm	1 個	—	
47	工具収納箱	—	1 箱	—	番号 29～41 及 び 43～46 を収 納

表 11—附属品

番号	品名	規格	数量	物品番号	摘要
1	金てこ ^{a)}	1 500 mm	1 個	5120-008-9900-5	—
2	ショベル ^{a)}	丸形	1 個	5120-000-2979-5	—
3	つるはし ^{a)}	—	1 個	—	—
4	おの ^{a)}	洋形 1.8 kg	1 個	—	—
5	けん引用鋼索 ^{a)}	—	1 本	—	—
6	シャックル ^{a)}	—	2 個	—	—
7	戦車用旗 ^{a)}	—	1 組	—	—
8	戦車用旗立て ^{a)}	—	1 個	—	—
9	特殊武器防護用連結管 ^{a)}	収納袋付	4 組	—	—
10	消火器 ^{a)}	粉末消火器 ABC, 1.8 kg, 加圧式自動車用	2 個	4210-411-1055-5	GE-Z421018
11	消火器取付具 ^{a)}	—	2 個	—	—
12	車両おおい	帆布	1 張	—	DSP L 4768
13	後写鏡	左右	1 組	—	—
14	輪止め ^{a)}	—	1 式	—	—
15	外部給電コード	24 V 用 袋入り	1 式	—	—
16	タイヤゲージ ^{a)}	圧力計付きタイヤゲー ジ	1 式	—	—
17	タイヤ空気充てん用ホース ^{a)}	接続金具付 10 m	1 式	—	—
18	油器具類 ^{a)}	油さし, じょうご, グ リースガン, 油器具箱 など	1 式	—	—
19	給油脂図版 ^{a)}	—	1 個	—	—
20	配線図版 ^{a)}	—	1 個	—	—
21	予備品箱 ^{a)}	—	1 箱	—	—

表 11－附属品（続き）

番号	品名	規格	数量	物品番号	摘要
22	附属品収納箱	—	1 箱	—	番号 13 及び番号 23～27 を収納
23	かぎ	ハッチ用（装填手，操縦手，車筐後部）	3 組	—	—
24	点検用ハンドランプ	種類 1	1 個	6230-115-2724-5	—
25	アダプタケーブル	点検灯用	1 個	2590-225-4431-5	—
26	ドレンパイプ	長	1 本	—	—
27	ドレンパイプ	短	1 本	—	—
28	非常信号灯 ^{a)}	—	1 個	—	—
29	非常信号灯取付具 ^{a)}	—	1 個	—	—
30	エア用アダプタ ^{a)}	ブレーキエア供給用	1 個	—	—
注^{a)} 車載用附属品とする。					

表 12—特殊附属品

番号	品名	数量	物品番号	注記
1	指揮統制装置	1 式	—	附属書 C による。
2	MINIMI アタッチメント	1 式	—	附属書 C による。
3	40AGL アタッチメント	1 式	—	附属書 C による。
4	直接照準眼鏡用パラキャップ	1 式	—	附属書 C による。
5	直接照準眼鏡用レーザ防護フィルタ	1 式	—	附属書 C による。
6	直接照準眼鏡用フィルタ取付金具	1 式	—	附属書 C による。
7	暖房装置	1 式	—	附属書 C による。
8	補助電源装置	1 式	—	附属書 C による。
9	空調装置	1 式	—	附属書 C による。
10	増設弾薬架	1 式	—	附属書 C による。
11	砲塔部リヤバスケット	1 式	—	附属書 C による。
12	砲塔部サイドモジュール	1 式	—	附属書 C による。
13	車体部アンダーガード	1 式	—	附属書 C による。
14	環境センサ部	1 式	—	附属書 C による。
15	砲口照合部	1 式	—	附属書 C による。
16	前方カメラ	1 式	—	附属書 C による。
17	後方カメラ	1 式	—	附属書 C による。
18	レーザ検知装置	1 式	—	附属書 C による。
19	車長用風防装置	1 個	—	附属書 C による。
20	操縦手用風防装置	1 個	—	附属書 C による。
21	ジャッキ	1 個	—	15t ジャッキ JIS D 8101

表 13—予備品

番号	品名	規格	数量	用途	注記
1	電球	24 V 25 W/10 W	1 個	尾灯用 (制動灯と兼用)	表 11 番号 21 の 予備品箱に収 納
2	電球	24 V 25 W	2 個	点検用ハンドランプ, 方向指示灯用, 後退灯	
3	電球	24 V 12 W	2 個	室内灯, 管制運転灯用, 車幅灯, 番号灯	
4	電球	24 V 6 W	2 個	管制車幅灯, 管制制動灯, 管制尾灯用,	
5	ヒューズ	2 A	1 個	ワイパモータ用	

6.3 慣らし運転

契約の相手方は、機動戦闘車の組立て完了後、官側の最終検査を受けるに先立ち、NDS D 11 0 1 に準ずる慣らし運転を全数行うものとする。なお、本走行は表 14 に示す距離で起伏路を含むものとし、平坦路については台上運転装置を用いた走行を基準とする。

表 14－慣らし運転距離

番号	走行区分	走行距離 (k m)	
		量産初年度	次年度以降
1	平坦路	120	90
2	起伏路	80	60

6.4 納入上の要求事項

契約の相手方は、機動戦闘車の納入に際し、その納入時期、納地（又は、使用部隊）などを考慮して、適正な燃料及び油脂を選択し、使用するものとする。

6.5 関連業者との協力

契約の相手方は、機動戦闘車の製作に当たり、官給品の製造業者と密接な連絡を取り、官給品の車両への搭載及び取付けなどについて意見の調整に努めるものとする。

6.6 承認用図面等

契約の相手方は、2.3、2.4、2.6、2.9、2.10、2.12、2.14 その他必要なものについて契約後速やかに承認用図面及び承認用見本（以下、“承認用図面等”という。）を作成し、担当官の承認を受けるものとする。

なお、承認用図面等の作成及び提出に関する手続きその他必要事項については、GLT-CG-Z000001の箇条6による。

6.7 秘密の保全

契約の相手方は、機動戦闘車の製造にかかわる物件、文書、図面などの秘密に指定されたものの取扱いにおいて、“秘密保全に関する訓令”に基づき、その取扱いに万全の注意を払わなければならない。

6.8 情報セキュリティの確保

契約の相手方は、この契約の履行にあたり知り得た保護すべき情報の取扱いについては、防経装第9246号（21.7.31）“装備品等及び役務の調達における情報セキュリティの確保について（通達）”に基づき適切に管理するものとし、保護すべき情報の取り扱いについての指定事項は、情報セキュリティ指定書による。

6.9 型式管理

契約の相手方は、“装備品等の型式管理について（通達）”に基づき、型式管理を実施するものとする。

6.10 技術変更提案

契約の相手方は、自らの発意又は官側の指示によって、技術変更提案をする場合は、“技術変更提案の処理について（通達）”別冊によって担当官に提案するものとする。

6.11 技術活動

契約の相手方は、調達要領指定書によって指定する場合は次の技術活動を行い、機動戦闘車の品質確保に努めるものとする。

- a) 技術変更提案に関する検討及び対策の立案
- b) 取扱書、補給カタログ及び整備実施規定に関する変更案検討
- c) 代替品、材料及び形状などの技術的検討

- d) 製造に関する技術的支援
- e) 官側の依頼に基づく整備に関する技術指導
- f) 官側の依頼に基づく技術的調査事項（不具合対応を含む。）に対する技術資料の収集・検討及び検討結果の報告
- g) 官給品の技術情報の調査・検討及び官給品の変更に伴う関連事項の技術的検討
- h) 規格及び法令などの改訂有無の調査及び改訂に伴う関連事項の技術的検討

6.12 申請書類

契約の相手方は、調達要領指定書によって指定する場合を除き、“自衛隊の使用する自動車に関する訓令”に基づき、適用除外申請に必要な書類の提出を、契約後速やかに担当官を経て調達要求元に提出するものとする。

6.13 納入書類

6.13.1 添付書類

契約の相手方は、調達要領指定書によって指定する場合を除き、機動戦闘車1両ごとに表15の書類を添付するものとする。

表 15—添付書類

番号	品名	数量	注記
1	取扱説明書	1部	GLT-CG-Z000001の7.1 a)
2	整備資料（第1種）	a)	GLT-CG-Z000001の7.2 a)
3	部品表（第1種）	a)	GLT-CG-Z000001の7.3 a)
4	納入装備品等のかしに関する契約条項	1部	GLT-CG-Z000001の7.4
注 ^{a)} 数量は、調達要領指定書によって指定する。			

6.13.2 提出書類

提出書類は、調達要領指定書によって指定する場合を除き、表16による。

表 16—提出書類

番号	品名	数量	注記
1	整備資料（第1種）	a)	GLT-CG-Z000001の7.2 a)
2	部品表（第1種）		GLT-CG-Z000001の7.3 a)
注 ^{a)} 数量、提出先及び提出要領（書類又は可搬記憶媒体）は、調達要領指定書によって指定する。			

6.14 官側の支援

契約の相手方は、この仕様書に規定する試験及び検査を官側の施設、設備又は機器などを使用して実施する場合、製造及び納入のための諸作業並びに諸試験のうち、相手方自身で行うことのできないものについては、官側に支援を依頼できるものとする。

6.15 発生材の処理

製造に際し生じた発生材は、契約の相手方において廃棄するものとする。

6.16 その他

- a) 工業所有権に関する注意については、GLT-CG-Z000001の8.1による。
- b) 官側の資料使用に関する注意については、GLT-CG-Z000001の8.2による。

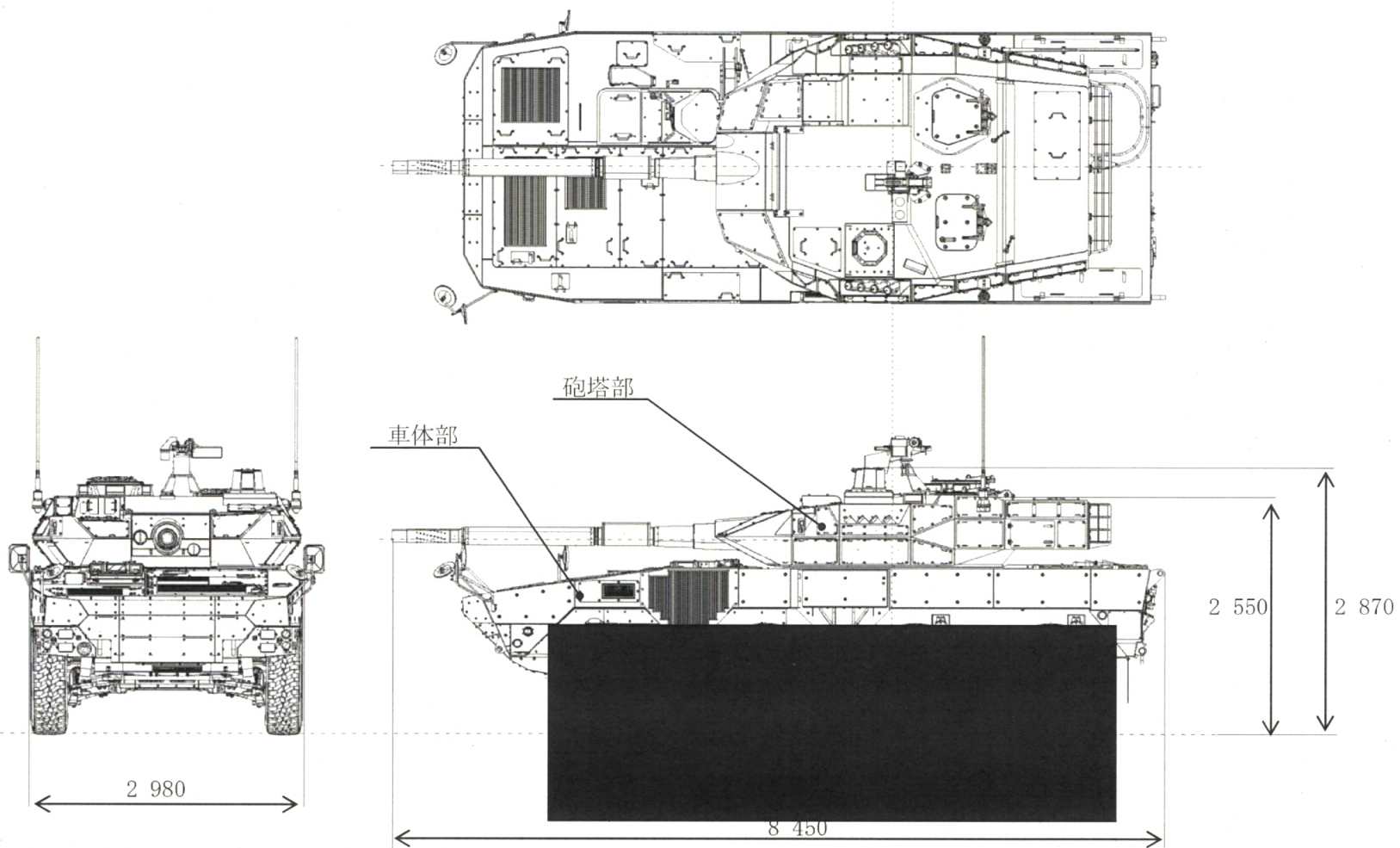
c) 契約の相手方は、監督・検査に必要な資料を官側の要求によって、閲覧に供するものとする。

6.17 仕様書に関する疑義

この仕様書に関する疑義は、GLT-CG-Z000001の8.3による。

単位：mm

-33-

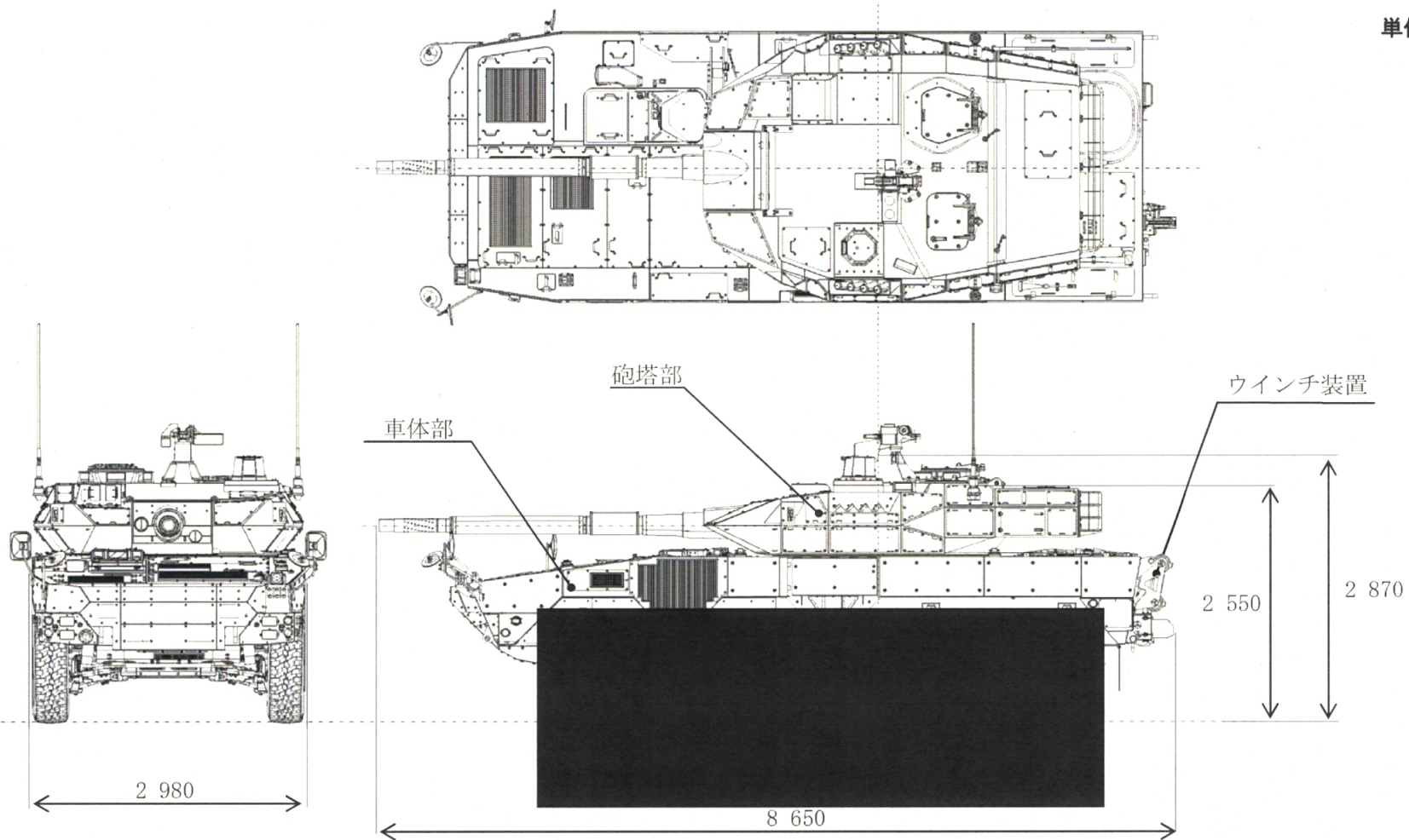


注記 図は付加装甲搭載時を示す。

図 1a-外観 (機動戦闘車)

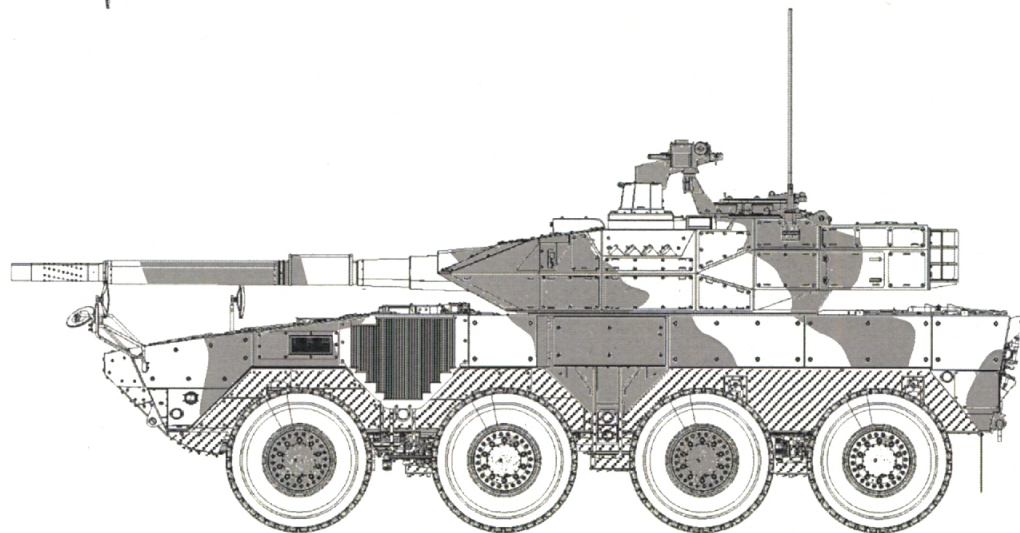
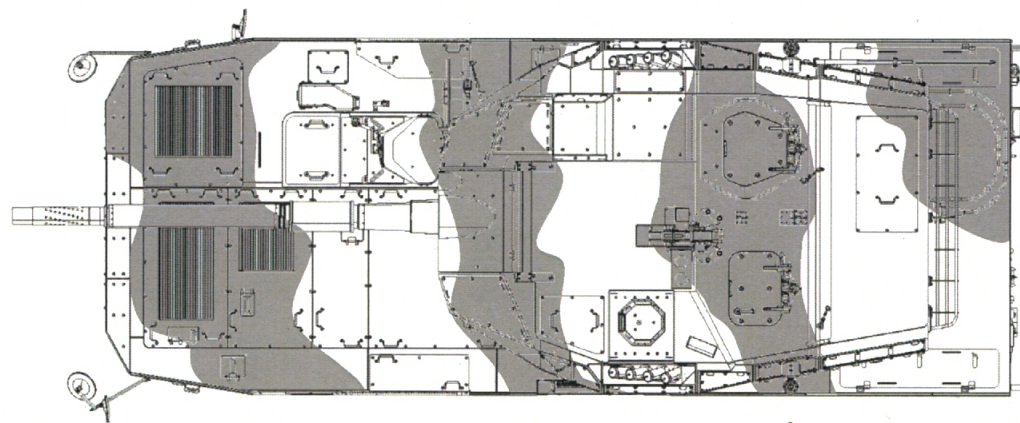
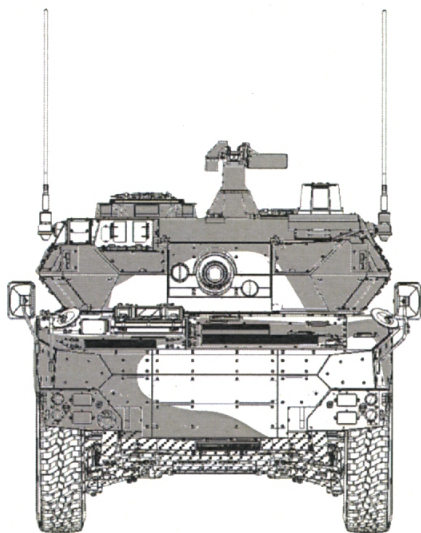
単位：mm

-34-



注記 図は付加装甲搭載時を示す。

図 1b-外観 (機動戦闘車 (ウインチ装置付))



注記1 塗装の模様は、一例を示す。

注記2 図は付加装甲Ⅰ型及びⅡ型搭載時を示す。

図2-塗装の模様

附属書 A (規定) 用語及び定義

A.1 適用範囲

この附属書は、本体 1.2 に基づき、用語及び定義について規定する。

A.2 用語及び定義

用語及び定義は、表 A.1 による。

表 A.1—用語及び定義

番号	用語	定義
1.2.1	安定 (制御)	砲、砲塔、車長用視察照準装置及び砲手用視察照準装置を外乱の影響を受けても空間安定するように制御することをいう。
1.2.2	遊星歯車式自動変速機	遊星歯車とトルクコンバータを組み合わせ、これを油圧などで制御し、自動的に変速段の切替えを行う変速機をいう。
1.2.3	映像記録装置	統合制御部及び映像処理部との電氣的インターフェースを有し、砲塔からの電源供給によって砲手視察照準画面を記録するとともに、記録されたデータを再生し、汎用モニタに表示できる機能を有する装置のことをいう。
1.2.4	LCD	液晶ディスプレイ (Liquid Crystal Display の略)
1.2.5	NETD	雑音等価温度差 (Noise Equivalent Temperature Difference の略)
1.2.6	演算	一定周期で繰返し計算することをいう。
1.2.7	オートコリメータ方式	コリメータと望遠鏡を組み合わせた微小な角度の差や振れなどを測定する光学方式をいう。
1.2.8	オーバライド機能	車長と砲手とで項目が重複する操作については、車長が優先することができる機能をいう。
1.2.9	外乱	車両の走行によって車体に発生する空間角速度をいう。
1.2.10	カード	制御器のカードスロットに挿入する形状をした電子回路基板をいう。
1.2.11	可変ノズル排気ターボ過給器	機関の排気エネルギーを利用しコンプレッサを駆動し機関に圧縮空気を供給する装置 (過給装置) の内、機関の排気エネルギーの持つ圧力エネルギーを速度エネルギーに変換するタービンノズルが可動する機能を有するものをいう。
1.2.12	キューポラ	砲塔上部に設置され、乗員が周囲を視察するための視察装置を組み込んだ司令塔のことをいう。
1.2.13	空間角速度	水平面基準の角速度をいう。
1.2.14	視察照準画面	車長用視察照準装置あるいは砲手用視察照準装置からの映像に射撃統制に必要な情報を重畳した画面をいう。
1.2.15	射撃統制誤差	射撃統制偏差より、砲追従偏差しきい(閾)値の考え方を適用し、砲追従偏差しきい(閾)値内の射撃統制偏差の σ を求め、これを射撃統制誤差とする。 射撃統制誤差は、旋回、ふ仰方向があり、それぞれ幅を持って割付けられているため、命中確率を満足する旋回・ふ仰の関係を考慮する必要がある。

表 A.1—用語及び定義（続き）

番号	用語	定義
1.2.16	車体試験機	車体部の制御器に接続し、制御情報などを表示する機能を有する装置のことをいう。
1.2.17	車両全長	砲口から車体後端までの距離をいう。
1.2.18	全高	平坦堅硬な接地面から突起部を除く砲塔上面までの高さをいう。
1.2.19	全幅	車筐袖部の左右の側板間の幅（他の突起物などは含まない。）をいう。
1.2.20	送信	無線にて他車両へ情報を送ることをいう。
1.2.21	送受信	車両間を無線にて情報を授受することをいう。
1.2.22	電子制御式ユニットインジェクタ方式	シリンダごとに燃料を圧送して噴射する燃料噴射装置を配置し、燃料の噴射時期及び噴射量を電子制御化した燃料噴射方式をいう。
1.2.23	弾列	機関銃用弾薬をリンクにより接続したものをいう。
1.2.24	DEXRON III	自動変速機油の規格の一つである。また、末尾の数字により性能ランクが示されている。
1.2.25	ドライサンプ方式	クランク室とは別に設けたタンクからポンプで潤滑油を供給し、循環させ潤滑する方式をいう。
1.2.26	入出力, 入力, 出力	車内の機器間を有線にて信号あるいは電源の授受を行うこと又はその方向を示すことをいう。
1.2.27	ノーバック機構	手動軸側と負荷軸側を分離し一方通行の伝達部品で接続することにより、手動軸側からの回転操作のみを出力軸側に伝達し出力軸側からの回転を手動軸側へ伝達しない機構をいう
1.2.28	バックラッシ除去機構	歯車を二重化し、それぞれ反対方向に開く力を加えることによってギヤ噛み合わせの際のバックラッシを取り除く機構をいう。
1.2.29	発射速度	車長による目標発見から、オーバライド、砲手による照準点調整、測距（測距操作、弾道計算）、射角付与、弾撃発までの時間をいう。
1.2.30	PC	車長用視察照準装置（Periscope Commander の略）
1.2.31	PG	砲手用視察照準装置（Periscope Gunner の略）
1.2.32	ピニオンシフトリダクション方式	ピニオンギヤを小型のマグネットスイッチを使いレバーを介して押し込み、メインモータに小型モータを用いてギヤによって減速し使用するスタータ方式のことをいう。
1.2.33	ブレーキクラッチ	砲・砲塔を動力によって駆動する際に、ブレーキ機構との機械的接続を切り離すクラッチをいう。
1.2.34	砲追従誤差	砲の慣性モーメントや制御の遅れによって指令信号への追従が遅れる誤差をいう。
1.2.35	砲塔モード	砲・砲塔駆動の制御区分のことをいう。 ・手動は、手動ハンドルの操作によって砲・砲塔を駆動することをいう。 ・動力は、砲手用ハンドルの操作によってモータで砲・砲塔を駆動することをいう。 ・安定は、砲手用ハンドルの操作によって、モータで砲・砲塔を駆動するとともに、外乱の影響を受けないように自動的に制御を行うことをいう。

表 A. 1—用語及び定義 (続き)

番号	用語	定義
1. 2. 36	mil	角度の単位。6 400 mil=360 度
1. 2. 37	付加装甲 (砲塔及び車体)	脅威に対する耐弾性及び着脱機能を有する装置をいう。
1. 2. 38	ラチス	車外からの吸気又は車外への排気のため車筐に設けた開口部に配置する構造体であり、通気性と防護性を考慮した形状を有する複数の鋼板を平行に並べて構成されるものをいう。
1. 2. 39	レースマウント	砲塔旋回ベアリングの取付座をいう。車筐に溶接構造として設けられており、砲塔部に取付けられた砲塔旋回ベアリングとボルト締結されるものとする。
1. 2. 40	ワイヤーレースクロスローラ構造	軸受けの内輪と外輪の間に円筒ころを垂直に配置し、ころの全周をワイヤで覆う構造のことをいう。
1. 2. 41	パラキャップ	中心部に小さな穴が開いた黒い円盤であり、直接照準眼鏡の接眼部に装着して使用するものをいう。

**附属書B
(規定)
性能及び諸元**

B.1 適用範囲

この附属書は、本体 2.9 に基づき、性能及び諸元について規定する。

なお、あ ~ せ は別冊第 1, い ~ け は別冊第 2, A ~ K は別冊第 3 による。

B.2 性能

性能は、表 B.1 による。

表 B.1—性能

区分	項目		性能
機動戦闘車	命中精度	停止間	あ %以上
		走行間	い %以上
砲塔部	射撃統制誤差	停止間	旋回：0.22 mil 以下
			ふ仰： A mil 以下
		走行間	旋回：0.71mil 以下
			ふ仰： B mil 以下
	発射速度		う s 以下
	探知識別距離 (車長・砲手)	探知	え m 以上
		識別	お m 以上
直接防護性能 (砲塔シェル)		か に対し、射距離 き m 相当存速で貫徹されないこと。	
砲・砲塔 駆動装置	動作範囲	旋回	360 度
		高低	- C 度以下~+ D 度以上 (車体と干渉する部分を除く)
	最大速度	旋回	30 度/s 以上
		高低	E 度/s 以上
	最小速度	旋回	0.5 mil/s 以下
		高低	F mil/s 以下
映像処 理部	画像追尾誤差	旋回	0.38 mil 以下
		高低	イ mil 以下
レーザ 測遠機	測距範囲		ウ m 以下~ エ m 以上
レーザ検 知装置	検知対象		G μm
	検知範囲		H 度以上
車体部	路上性能		—
	最高速度		100 km/h 以上
	航続距離		I km 以上
	加速性能		J s 以下 (0-400 m 発進加速)
	最小回転半径		12 m 以下

表 B.1-1 性能 (続き)

区分	項目	性能	
機動戦闘車	車体部 (続き)	制動性能	—
		停止距離	36.7 m 以下 (60 km/h から停止)
		駐車制動性能	18 %以上
	路外機動性能		—
		コーン指数	オ 以下
		超ごう	カ m 以上
		超堤	キ m 以上
		登坂	ク %以上
		渡渉	ケ m 以上
		夜間機動性能	操縦用手用暗視装置 視野角：約 < < deg 以上
	ウインチ装置けん引性能	最大けん引力 80 kN 以上	
	特殊武器防護性能	有毒化学剤などで汚染された空気を < < 時間以上浄化して供給することができること。	
	最大安定傾斜角	30 度以上 (左側及び右側)	
	直接防護性能 (車筐)	< < に射距離 < < m 相当存速で貫徹されないこと。 また、底面は、< < (さく薬量 < < g) 相当の威力に貫徹されないこと。	

B.3 諸元

諸元は、表 B.2 による。

表 B.2—諸元

名称	項目	諸元
機動戦闘車	—	—
砲塔部	—	—
火器部	—	—
車載機関銃部	搭載方法	105mm施線砲同軸托架方式
車外機関銃部	搭載方法	独立銃架方式
砲塔装置部	—	—
砲・砲塔駆動装置	駆動源	電動・手動併用式
	電動駆動方式	モータ及びギヤボックス方式
射撃統制制御器	制御方式	デジタル演算方式
	弾道計算方式	テーブル方式
	弾道計算弾種	5弾種 (2弾種追加可能)
	追尾処理方式	相関追尾方式
視察照準装置	—	—
車長用視察照準装置	方式	独立旋回潜望鏡方式
	赤外系視察装置	中赤外線カメラ方式
	倍率切換方式	光学2変倍方式+電子変倍方式
砲手用視察照準装置	方式	砲塔固定潜望鏡方式
	可視系視察装置	可視カメラ方式
	赤外系視察装置	中赤外線カメラ方式
	倍率切換方式	電子変倍方式
直接照準眼鏡	方式	光学潜望鏡方式
表示・操作装置	—	—
操作ハンドル	—	—
車長用ハンドル	ハンドル形式	片手操作式 (優先機能付)
砲手用ハンドル	ハンドル形式	両手操作式
表示部	—	—
車長用表示器	方式	LCD方式
砲手用表示器	方式	LCD方式
弾道諸元センサ	—	—
レーザ測遠機	波長帯・出力	アイセーフレーザ
砲塔防護部	—	—
レーザ検知器	検知波長帯	K μm
発煙弾発射機	発煙弾発数	せ

表 B.2- 諸元 (続き)

名称		項目	諸元
機動戦闘車 (続き)	車体部	—	—
	車体装置部	—	—
	操縦装置	—	—
	操向装置	方式	円形ハンドル方式
	視察装置	方式	潜望鏡方式
	操縦手用表示・操作装置	—	—
	操縦手用表示器	方式	LCD 方式
	アクセル装置	方式	オルガン方式
	ブレーキ装置	方式	つり下げ方式
	変速装置	方式	シフトレバー方式
	操縦手用暗視装置	方式	赤外線カメラ方式
	タイヤ・懸架装置	—	—
	タイヤ	サイズ	395/85R20
	ホイール	サイズ	20×10.00
	懸架装置	形式	ダブルウィッシュボーン式独立懸架
	ブレーキ	形式	フルエア式ディスクブレーキ
	駐車ブレーキ	形式	後軸作動型機械式ディスクブレーキ
	車体電気装置	—	—
	電源装置	電源電圧	DC24 V
	制御器類	—	—
	機関接続箱	入力信号	アクセル信号など
		出力信号	スタータ駆動信号, 始動補助装置駆動信号, 燃料噴射装置駆動信号, 過給装置駆動信号など
	変速機制御器	入力信号	変速信号など
		出力信号	変速機駆動信号など
	車体制御器	入力信号	センサ信号, 操作信号など
		出力信号	表示信号など
	動力装置	方式	機関, 変速機, 冷却装置一体型
	機関	型式	4 サイクル水冷ディーゼル機関
		燃焼方式	直接噴射方式
		過給方式	可変ノズル排気ターボ過給方式
		シリンダ配列及び数	直列型 4 気筒
		シリンダ内径×行程	150 mm×160 mm
	総排気量	11.3 L	

表 B.2-1 諸元 (続き)

名称		項目	諸元			
機動戦闘車 (続き)	車体部 (続き)	車体装置部 (続き)	動力装置 (続き)	機関 (続き)	回転方向	動力取り出し方向から見て反時計回り
				潤滑方式	ドライサンプ方式	
				燃料噴射方式	電子制御式ユニットインジェクタ方式	
				スタータ方式	ピニオンシフトリダクション方式	
				発電機方式	三相全波整流方式	
				変速機	型式	トルクコンバータ付遊星歯車式自動変速機
					変速段数	前進 6 段後進 1 段
					変速制御方式	電子油圧式
				冷却装置	方式	吸込み冷却方式
					冷却ファン形式	斜流式
			駆動方式		油圧モータ駆動方式	
			動力伝達装置	型式	常時 8 輪駆動 (デフロック機能付)	
				動力伝達形式	I 型配置形式	
			車体装置	—	—	
			吸排気装置	吸気方式	ろ紙式メインフィルタ吸気方式	
				排気方式	排気管式	
			操縦手用ハッチ	方式	スライド式	
			操縦手用座席	方式	前後スライド式, 上下昇降式座席 ヘッドレスト付	
			その他	—	—	
			ウインチ装置	方式	油圧モータ方式	
			車体防護部	—	—	
			特殊武器防護装置	方式	個別防護方式	
			消火装置	乗員室	自動消火方式 (ハロン消火剤)	
				動力室	自動消火方式 (エアロゾル消火剤)	
			ランフラットコア	方式	ゴム製一体型	

附属書 C
(規定)
拡張性対応装置等

C.1 適用範囲

この附属書は、本体 2.10 に基づき、拡張性対応装置等について規定する。

なお、そ ~ の は別冊第 1、L ~ P は別冊第 3 による。

C.2 構造

拡張性対応装置等の構造は、表 C.1 による。

表 C.1—拡張性対応装置等の構造

名称		構造	注記
拡張性対応装置 ^{a)}	付加装甲部	付加装甲 I 型、II 型及び III 型からなる。	—
	付加装甲 I 型	砲塔シェル・車筐の側面及び上面にボルトにて装着することができる。	—
	付加装甲 II 型	砲塔シェル・車筐の前面にボルトにて装着することができる。	—
	付加装甲 III 型	砲塔シェル・車筐の前面及び側面にボルトにて装着することができる。	—
特殊附属品 ^{a)}	指揮統制装置	情報処理部、表示部、自己位置標定部、記録部などからなり、指揮統制情報を入出力する電氣的インターフェースを有する。	—
	MINIMI アタッチメント	GW-Y202502 を搭載可能な構造とする。	—
	40AGL アタッチメント	CP-Y-0079 を搭載可能な構造とする。	—
	直接照準眼鏡用パラキャップ	直接照準眼鏡の接眼部に取付けられる構造とする。	—
	直接照準眼鏡用レーザ防護フィルタ	直接照準眼鏡の接眼部に取付けられる構造とする。	—
	直接照準眼鏡用フィルタ取付金具	パラキャップ、レーザ防護フィルタを取付けられる構造とする。	—
	暖房装置	ファン、モータ、放熱器などを筐体に納めた構造とする。	—
	補助電源装置	a) 補助電源装置は、機関部、発電部、制御部、排気部、ハーネスなどからなる構造とする。 b) 補助電源装置は、耐振、防音を考慮した搭載構造とする。 c) 機関部は、単筒ディーゼル機関とする。 d) 発電部は、機関部と一体化とする構造とする。 e) 補助電源装置は、取外し可能な構造とする。 f) 排気部は、機関部の排気を車体外に排出する構造とする。	—
	空調装置	空調装置は、圧縮機、送風機、熱交換器、フレーム、インバータ、コントローラ、コンバータ、取付架台、ハーネスなどからなる構造とする。	—
増設弾薬架	弾薬を格納でき、車筐から取り出し可能な構造とする。	—	

表 C.1—拡張性対応装置等の構造 (続き)

	名称	構造	注記
特殊 附属品 ⑤ (続き)	砲塔部リヤバスケット	砲塔後面に装着できる構造とする。	—
	砲塔部サイドモジュール	砲塔側面に装着できる構造とする。	—
	車体部アンダーガード	車筐前方下面及び車筐後方下面に取付けられる構造とする。	—
	環境センサ部	a) 環境センサ部は、環境センサ、ハーネス及び取付ブラケットからなる。 b) 環境センサは、風センサ、大気温センサ、大気圧センサ、及びインターフェース基板からなり、筐体に納めた構造とする。 c) 取付ブラケットは、可倒式とし、環境センサを砲塔部に対し垂直に固定すること及び水平に格納することができる構造とする。	—
	砲口照合部	a) 砲口照合部は、砲口ミラー、砲口照合装置、ハーネス及び取付ブラケットからなる。 b) 砲口ミラーは、105mm施線砲先端の砲口リングに取付けるための機械的インターフェースを有する。 c) 砲口照合装置は、インターフェース基板を筐体に納めた構造とし、105mm施線砲の砲耳軸に取付けるための機械的インターフェースを有する。	—
	前方カメラ	車体前面に装着できる機械的インターフェース及び車両と接続する電氣的インターフェースを有する。	—
	後方カメラ	車体後面に装着できる機械的インターフェース及び車両と接続する電氣的インターフェースを有する。	—
	レーザ検知装置	検知器、ハーネス及びカバーなどからなる。	—
	車長用風防装置	窓部、支持部などからなり、キューポラに取り付け可能な構造とする。	
操縦手用風防装置	窓部、支持部などからなり、車筐に取り付け可能な構造とする。		
注 a) 拡張性対応装置及び特殊附属品を搭載する場合には、機動戦闘車に機械的インターフェース及び電氣的インターフェースを保有させることとする。			

C.3 機能

拡張性対応装置等の機能は、表 C.2 による。

表 C.2—拡張性対応装置等の機能

名称		機能	注記
拡張性対応装置	付加装甲部	次に示す各機能を有する。	—
	付加装甲Ⅰ型	砲塔シェル及び車筐に装着した状態で、 そ に対する耐弾性を有する。	—
	付加装甲Ⅱ型	砲塔シェル及び車筐に装着した状態で、 た に対する耐弾性を有する。	—
	付加装甲Ⅲ型	砲塔シェル及び車筐に装着した状態で、 ち に対する耐弾性を有する。	—
特殊附属品	指揮統制装置	a) 情報処理部・表示部は、指揮統制に関する情報を入力、表示及び処理できる機能を有する。 b) 自己位置標定部は、位置及び方位を取得できる機能を有する。 c) 記録部は、車両情報を記録できる機能を有する。 d) HV-B730002を基本とし、機動戦闘車の特性を考慮した機能を有するものとする。	—
	MINIMIアタッチメント	車外機関銃用銃架に取付け、GW-Y202502を装着できる機能を有する。	—
	40AGLアタッチメント	CP-Y-0079を装着できる機能を有する。	—
	直接照準眼鏡用パラキャップ	直接照準眼鏡への接眼位置のずれによる照準の誤差を低減する機能を有する。	—
	直接照準眼鏡用レーザー防護フィルタ	レーザー照射から目を保護する機能を有する。	—
	直接照準眼鏡用フィルタ取付金具	パラキャップ、レーザー防護フィルタを取付けられる機能を有する。	—
	暖房装置	機関冷却水の熱より温風を生成する機能を有する。	—
	補助電源装置	機関停止時に車両に必要な電力を供給する機能を有し、操縦装置のスイッチ操作によって補助電源装置を始動できる機能を有する。	—
	空調装置	乗員室内の空気を冷却及び除湿する機能を有する。	—
	増設弾薬架	予備弾薬を固定でき、弾薬使用時には容易に開放できる機能を有する。	—
	砲塔部リヤバスケット	副火器用弾薬などを搭載できる機能を有する。	—
	砲塔部サイドモジュール	乗員の携行具などを格納できる機能を有する。	—
	車体部アンダーガード	操向装置及び動力伝達装置を保護する機能を有する。	—
環境センサ	a) 風センサは、砲塔上部の風向、風速を電気信号へ変換する機能を有する。	—	

表 C.2—拡張性対応装置等の機能 (続き)

名称		機能	注記
特殊 附属品 (続き)	環境センサ (続き)	b) 大気温センサ及び大気圧センサは、大気温及び大気圧を電気信号に変換する機能を有する。 c) インターフェース基板は、電気信号をアナログからデジタルへ変換して指揮射撃統制制御器へ出力する機能を有する。	—
	砲口照合部	砲口照合装置は、計測光を砲口ミラーへ発射し、その反射光の受光位置を検出し、砲身変位量に変換して指揮射撃統制制御器へデジタルで出力する機能を有する。	—
	前方カメラ	車両前方の可視画像を撮像し、映像信号を出力する機能を有する。	—
	後方カメラ	車両後方の可視画像を撮像し、映像信号を出力する機能を有する。	—
	レーザ検知装置	外部から照射されたレーザ光の方向を検出し、出力する機能を有する。	—
	車長用風防装置	高速走行時の走行風から車長を保護する機能を有する。	—
	操縦手用風防装置	高速走行時の走行風から操縦手を保護する機能を有する。	—

C.4 性能

拡張性対応装置等の性能は、表 C.3 による。

表 C.3—拡張性対応装置等の性能

名称		性能		注記
拡張性 対応装置	付加装甲部	—		—
	付加装甲Ⅰ型	砲塔シェル及び車筐に装着した状態で、 <input type="checkbox"/> に貫徹されない。		—
	付加装甲Ⅱ型	砲塔シェル及び車筐に装着した状態で、 <input type="checkbox"/> に貫徹されない。		—
	付加装甲Ⅲ型	砲塔シェル及び車筐に装着した状態で、 <input type="checkbox"/> に貫徹されない。		—
特殊 附属品	指揮統制装置	—		—
	MINIMIアタッチメント	射界	旋回：360度	—
			高低： <input type="checkbox"/> L 度	—
	40AGLアタッチメント	射界	旋回：360度	—
高低： <input type="checkbox"/> M 度				

表 C.3—拡張性対応装置等の性能（続き）

名称		性能		注記	
特殊 附属品 (続き)	直接照準眼鏡用バラキャップ	—		—	
	直接照準眼鏡用レーザ防護フィルタ	—		—	
	直接照準眼鏡用フィルタ取付金具	取付け可能数：2		—	
	暖房装置	放熱量：22 000 kJ/h 風量：500 m ³ /h		—	
	補助電源装置	出力 5 kW 以上		NDS D 1801の4.1による。	
	空調装置	冷却能力 4.4 kW 以上		—	
	増設弾薬架	弾薬搭載数 <input type="text" value="な"/> 発		—	
	砲塔部リヤバスケット	—		—	
	砲塔部サイドモジュール	—		—	
	車体部アンダーガード	—		—	
	環境センサ	大気圧計測誤差	2 hPa 以下		—
		大気温計測誤差	0.2 °C 以下		
		横風計測誤差	0.5 m/s 以下		
		縦風計測誤差	0.5 m/s 以下		
	砲口照合部	検出 範囲	上下	±2 mil 以上	—
			左右	±2 mil 以上	—
		計測誤差	0.06 mil 以下		—
	前方カメラ	—		—	
	後方カメラ	—		—	
	レーザ検知装置	検知対象	<input type="text" value="N"/>	μm	—
検知範囲		<input type="text" value="O"/>	度以上	—	
車長用風防装置	—		—		
操縦手用風防装置	—		—		

C.5 諸元

拡張性対応装置等の諸元は、表 C.4 による。

表 C.4—拡張性対応装置等の諸元

名称		諸元				注記	
拡張性 対応装置	付加装甲部	—				—	
	付加装甲Ⅰ型	に 装甲	名称	材料	板厚	備考	—
	付加装甲Ⅱ型		ぬ				—
	付加装甲Ⅲ型	ね 装甲	名称	材料	板厚	備考	—
		の					
特殊 附属品	指揮統制装置	—				—	
	MINIMI アタッチメント	アタッチメント方式				—	
	40AGL アタッチメント	アタッチメント方式				—	
	直接照準眼鏡用 パラキャップ	キャップ式				—	
	直接照準眼鏡用レーザ 防護フィルタ	差込み方式				—	
	直接照準眼鏡用 フィルタ取付金具	差込み方式				—	
	暖房装置	温水式				—	
	補助電源装置	ディーゼル機関/AC 発電方式				—	
	空調装置	冷凍サイクル方式				—	
	増設弾薬架	組立式				—	
	砲塔部リヤバスケット	—				—	
	砲塔部サイドモジュール	—				—	
	車体部アンダーガード	—				—	
	環境センサ	—				—	
	砲口照合部	オートコリメータ方式				—	
	前方カメラ	可視カメラ方式				—	
	後方カメラ	可視カメラ方式				—	
	レーザ検知装置	検知波長帯： P μm				—	
	車長用風防装置	着脱式				—	
	操縦手用風防装置	着脱式 (ワイパ、ウインドウォッシャ、デフロスタ付き)				—	

C.6 拡張性対応装置及び特殊附属品等の組み合わせの基準

拡張性対応装置及び特殊附属品等の組み合わせの基準は、表 C.5 による。

表 C.5-拡張性対応装置及び特殊附属品等の組み合わせの基準（その1）

名称	戦闘車端 末装置	空調装置	砲塔部 リヤバス ケット	環境 センサ	指揮統制 装置	砲塔部 サイドモ ジュール	レーザ検 知装置	付加装甲 Ⅲ型
戦闘車 端末装置		×	—	—	×	—	—	
空調装置	×		×	△	—	—	—	
砲塔部リヤ バスケット	—	×		—	—	—	—	△
環境 センサ	—	△	—		—	—	—	
指揮統制 装置	×	—	—	—		—	—	
砲塔部 サイド モジュール	—	—	—	—	—		△	△
レーザ 検知装置	—	—	—	—	—	△		△
付加装甲 Ⅲ型			△			△	△	

注記 1 ×：特殊附属品等を選択した際に同時に搭載できないもの。
注記 2 △：特殊附属品等を選択した際に取付け位置及び構造などの変更を要するもの。

表 C.5-拡張性対応装置及び特殊附属品等の組み合わせの基準（その2）

名称	機動戦闘車 (ウインチ装置付)	補助電源装置	増設弾薬架
機動戦闘車 (ウインチ装置付)		×	×
補助電源装置	×		×
増設弾薬架	×	×	

注記 ×：特殊附属品等を選択した際に同時に搭載できないもの。

附属書 D (規定) 要求事項確認要領

D.1 適用範囲

この附属書は、本体 3.1 に基づき、要求事項確認要領について規定する。

なお、は ~ ほ は別冊第 1、Q ~ T は別冊第 3 による。

D.2 要求事項確認要領

要求事項確認要領は、本体 2.4、2.5 及び附属書 B に示した要求事項を満足するものとするほか、表 D.1 及び表 D.2 によって確認するものとする。

表 D.1—要求事項確認要領

項目		確認要領	判定基準	
機動戦闘車		NDS D 0101 に準拠	—	
寸法	全長	実測による。	2.6 による。	
	全幅	実測による。	2.6 による。	
	全高	実測による。	2.6 による。	
	最低地上高	実測による。	2.6 による。	
	軸間距離	1-2 軸間	実測による。	2.6 による。
		2-3 軸間	実測による。	2.6 による。
3-4 軸間		実測による。	2.6 による。	
質量	空車質量	実測による。	2.7 による。	
	全備質量	実測による。	2.7 による。	
機能	運行試験	契約ロットから 1 両を抽出し、210 km (不整地を含む。) を走行し、各装置の異常の有無を確認する。	異常がないものとする。	
注記 表中の実測については、契約ロットから 1 両とする。 なお、公差記載なき数値は、±5 % とする。				

表 D. 2—要求事項確認要領

項目		確認要領	区分 ^{a)}	判定基準	
機動戦闘車	命中精度	停止間	射撃統制誤差（停止間）と弾薬の射弾散布の2乗和平方根により算出	A	表 B. 1 による。
		走行間	射撃統制誤差（走行間）と弾薬の射弾散布の2乗和平方根により算出	A	表 B. 1 による。
砲塔部	射撃統制誤差	停止間	照準誤差，連動誤差，見越し角設定誤差の2乗和平方根により計算する。 ・外乱はなしとする。 ・誤差は標準誤差（1σ）とする。 ・照準誤差及び見越し角設定誤差は設計計算値とし，連動誤差は実測値を用いる。	A	表 B. 1 による。
		走行間	照準誤差，画像追尾誤差，連動誤差，見越し角設定誤差の2乗和平方根により計算する。 ・外乱は正弦波入力とする。 ・誤差は標準誤差（1σ）とする。 ・照準誤差及び見越し角設定誤差は設計計算値とし，画像追尾誤差及び連動誤差は実測値を用いる。	A	表 B. 1 による。
	発射速度	目標発見から初弾撃発までの時間を計測する。 ・自車状態：停止 ・目標発見から初弾撃発の間の乗員操作時間は設計計算値とする。 ・目標に対する砲・砲塔初期離角は，ふ仰 Q 度，旋回 R 度以内とする。	A	表 B. 1 による。	
探知識別距離（車長・砲手）	探知	・赤外におけるNETDなどの計測結果から算出されるMDTD曲線及びMRTD曲線と標準大気透過率曲線より算出する。 ・目標条件 大きさ $S \times T$ m, $\Delta T =$ は $^{\circ}C$ ・環境条件（標準大気条件）： 気温 27 $^{\circ}C$ ，湿度 80 %， 大気圧 1 013 hPa，視程 10 km	A	表 B. 1 による。	
	識別		A	表 B. 1 による。	
直接防護性能（砲塔シェル）		各部の材料及び板厚は，材料証明書による。特殊鋼板の検査方法は，NDS G 3105 に準ずる。	A	別冊第 1 による。	
		別冊第 1 に示す溶接部について，溶接裏面の硬さを確認する。	B		

表 D.2—要求事項確認要領（続き）

項目		確認要領	区分 ^{a)}	判定基準		
機動戦闘車 (続き)	砲塔部 (続き)	動作範囲	旋回	ハンドル操作信号を入力し、ログで確認する。	A	表 B.1 による。
			高低	ハンドル操作信号を入力し、ログで確認する。	A	表 B.1 による。
		最大速度	旋回	ハンドル操作信号を入力し、ログで確認する。	A	表 B.1 による。
			高低	ハンドル操作信号を入力し、ログで確認する。	A	表 B.1 による。
		最小速度	旋回	ハンドル操作信号を入力し、ログで確認する。	A	表 B.1 による。
			高低	ハンドル操作信号を入力し、ログで確認する。	A	表 B.1 による。
		映像処理部	旋回	試験用の目標を追尾し、画像追随誤差を計測する。	A	表 B.1 による。
			高低	目標画像条件： ΔT <input type="text" value="ひ"/> °C, $\Delta E14$ 相当, <input type="text" value="ふ"/> mil/s 相当横移動 誤差：標準偏差 1σ とする。		
		レーザ測遠機	測距範囲	実距離若しくは実距離相当の光路を模擬する装置を用いて計測する。	A	表 B.1 による。
		レーザ検知装置	検知対象	メーカーカタログにより、条件の波長を含んでいることを確認する。	B	表 B.1 による。
	検知範囲		砲塔台上試験において砲塔を一定間隔で旋回させ、レーザを照射する。	B	表 B.1 による。	

表 D.2-要求事項確認要領 (続き)

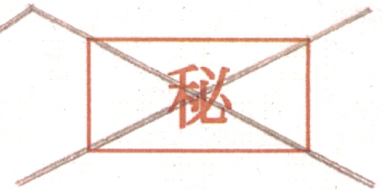
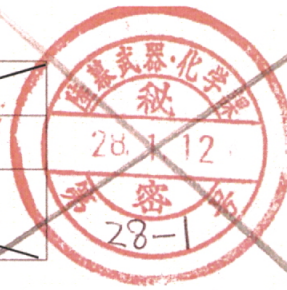
項目		確認要領	区分 ^{a)}	判定基準	
機動戦闘車 (続き)	車体部	路上性能	—	—	
		最高速度 ^{b)}	NDS D 1011に準ずる。	B	表 B.1 による。
		航続距離 ^{b)}	平坦乾燥コンクリート路面 60 km/h における一定区間の燃料消費量から燃料消費率を計算し、これと燃料タンク容量から算出する。	C	表 B.1 による。
		加速性能 ^{b)}	JIS D 1014に準ずる。	B	表 B.1 による。
		最小回転半径	操向装置を右又は左に最大に操作し、極低速で旋回したときの最外側のわだちの中心点で作られる軌跡の半径又は操舵角を実測し、最小回転半径を導出する。	B	表 B.1 による。
		制動性能	—	—	—
		停止距離 ^{b)}	自衛隊の使用する自動車に関する訓令による。	B	表 B.1 による。
		駐車制動性能		B	表 B.1 による。
		路外機動性能	—	—	—
		コーン指数	コーン指数算定に基づく計算式による。	B	表 B.1 による。
		超ごう	NDS D 1403による。	B	表 B.1 による。
		超堤		B	表 B.1 による。
		登坂	設計に基づく計算値による。	B	表 B.1 による。
		渡渉	NDS D 1402の4.1a)の施設を使用した浅瀬の渡渉試験に準ずる。	B	表 B.1 による。
		夜間機動性能	NDS C 0212の5.11による。	A	表 B.1 による。
		特殊武器防護性能	同一仕様のサンプルを用いた基準濃度 <input type="text" value="〜"/> %の試験試薬 <input type="text" value="ほ"/> の通過に対する破過時間による。プロワは定格流量での運転とする。	C	表 B.1 による。
		最大安定傾斜角	傾斜台において、左右 30 度未満で車両が転覆しないこと。	C	表 B.1 による。
		ウインチ装置けん引力	アンカに接続したロードセルを機動戦闘車のウインチ装置にてけん引する。	D	表 B.1 による。
		直接防護性能(車筐)	各部の材料及び板厚は、材料証明書による。特殊鋼板の検査方法は、NDS G 3105に準ずる。	A	別冊第 1 による。
			別冊第 1 に示す溶接部について、溶接裏面の硬さを確認する。	B	

注^{a)} 区分は、次による。

A : 全車両に適用, B : 契約ロット車両のうち 1 両に適用, C : 量産初年度の初号車のみ適用
D : 機動戦闘車 (ウインチ装置付) の初号車に適用

注^{b)} 試験は民間試験場の高速周回路などで実施する。

~~陸幕武化秘第28-1号~~ ~~2~~
~~3枚つづり (秘3枚)~~
~~平成58年3月31日まで保存~~
~~(保存期間の満了日をもって秘の指定期間を満了)~~



陸上自衛隊仕様書 GV-Y120003 16式機動戦闘車 別冊第1

秘密事項の指定等 (秘)

1 次に示す数値等は、秘密区分等を“秘”に指定する。

a) 仕様書の記号と性能諸元 (下線部秘)

あ:	[Redacted]	た:	[Redacted]
い:	[Redacted]	ち:	[Redacted]
う:	[Redacted]	つ:	[Redacted]
え:	[Redacted]	て:	[Redacted]
お:	[Redacted]	と:	[Redacted]
か:	[Redacted]	な:	[Redacted]
き:	[Redacted]	に:	[Redacted]
く:	[Redacted]	ぬ:	別紙による。
け:	[Redacted]	ね:	[Redacted]
こ:	[Redacted]	の:	別紙による。
さ:	[Redacted]	は:	[Redacted]
し:	[Redacted]	ひ:	[Redacted]
す:	[Redacted]	ふ:	[Redacted]
せ:	[Redacted]	へ:	[Redacted]
そ:	[Redacted]	ほ:	[Redacted]

(秘に該当する理由) ㊸、装備・武器化学第6項、f





別紙

ぬ-1

	名称	材料	備考
①			
②			
③			

(太枠内秘)

~~秘~~

ぬ-2

	名称	材料	備考
①			
②			
③			
④			
⑤			

(太枠内秘)

(秘に該当する理由) ③、~~装備~~ 武器化学第6項、f



~~秘~~

の

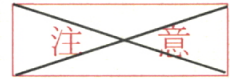
	名称	材料	板厚	備考
①	[Redacted]			
②				
③				

(本枠内秘)

武 化

(秘に該当する理由) ③、装備・武器化学第6項、f

~~秘~~



陸上自衛隊仕様書 GV-Y120003 16式機動戦闘車 別冊第2

秘密事項の指定等 (注意)

1 次に示す数値は、秘密区分等を“注意”に指定する。

a) 仕様書の記号と数値 (下線部注意)

ア: [REDACTED]

イ: [REDACTED]

ウ: [REDACTED]

エ: [REDACTED]

オ: [REDACTED]

カ: [REDACTED]

キ: [REDACTED]

ク: [REDACTED]

ケ: [REDACTED]

(注意に該当する理由) ㊸、装備・武器化学第6項

平成58年3月31日まで保存

~~部内限り~~

陸上自衛隊仕様書 GV-Y120003 16式機動戦闘車 別冊第3

~~秘密事項の指定等 (部内限り)~~

1 次に示す数値は、秘密区分等を“部内限り”に指定する。

a) 仕様書の記号と数値 (干線部部内限り)

- | | | | |
|-----|------------------|-----|----------|
| A : | ██████ | Q : | ██████ |
| B : | ████████ | R : | ██████ |
| C : | ██████ | S : | ████████ |
| D : | ██████ | T : | ████████ |
| E : | ██████ | | |
| F : | ████████ | | |
| G : | ██████████ | | |
| H : | ████████████████ | | |
| I : | ██████ | | |
| J : | ██████ | | |
| K : | ██████████ | | |
| L : | ██████████ | | |
| M : | ██████████ | | |
| N : | ██████████ | | |
| O : | ████████████████ | | |
| P : | ██████████ | | |

~~(部内限りに該当する理由) ㊸、装備-武器化学第6項~~

平成58年3月31日まで保存